

人民戦線に對する  
トナースの宣戰

青年教員普及会發行





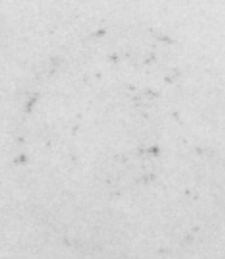
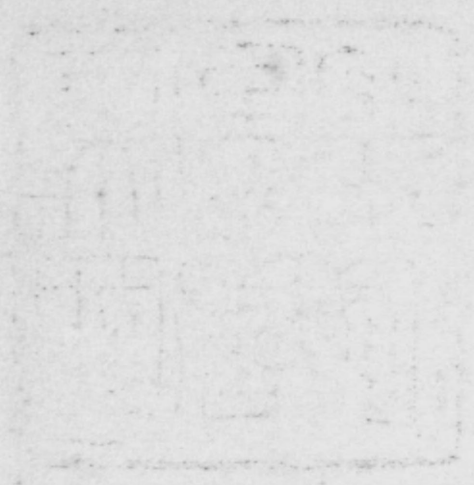


フオン・デイルクセン序  
文化協會編

人民戰線  
に對する

# ナチスの宣戰

東京青年教育普及會發行



ドイツ大總統  
トイツ宣傳相

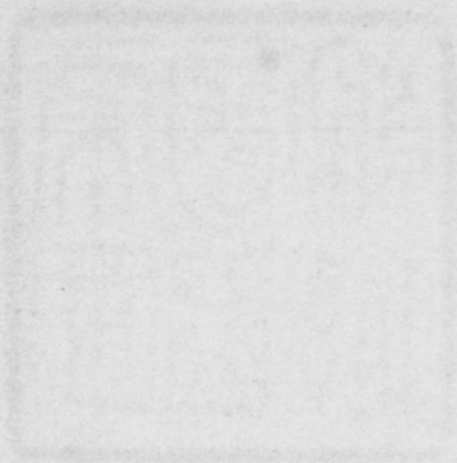
ヒットラー述  
ゲッベルス述

人民戰線  
に對する

# ナチスの宣戰

東京 青年教育普及會發行





## 序

日獨防共協定ノ締結ニ關聯シテハ、只單ニ協約ノ意義ト目的ソレ自體ニツイテノミナラズ、更ニ締約國兩政府ノ一般的政治目的ニツイテマデモ、種々ノ誤ツタ取沙汰ヤ誤解ヲ惹起シ易イ報道ガ、全世界ニ於テ、口ニ又筆ニ傳ヘラレタ。

兩國政府ガ、ソノ道義的防衛力ヲ結束スルニ至ツタノハ、相互的ニ、後見ノ位置ニ立チ、又ハ干涉セントスル希望カラデハナク、全ク一切ノ共產主義的攻撃ニ對抗シテ、ソノ民族ノ内外ニ於ケル平和ヲ擁護セントスル共通ノ國民的根本態度ニ根ザス確乎タル決意カラデアアル。

本冊子ニ於テ、獨逸國ノ指導的爲政者ニ、親シク、廣ク日本國ノ大衆



ニ向ツテ呼ビカケル機會ガ與ヘラレタコトハ、予ノ衷心ヨリ欣快トスル處デアル。獨逸國民ノ平和意思ト、全世界共產主義ニ對スル牢乎タル防壁ヲ築カセントスル、獨逸國民ノ覺悟トヲ立證スルコト、蓋シ本書ニ及ブモノハナイ。

## 獨逸國大使

フォン・デイルクセン

尙ほ右序文は昭和十一年十二月十日大東文化協會研究部に手交されたものである

# 目 次

---

理論と實踐に於けるボルシェヴィズム

ドイツ宣傳大臣 ゲツベルス 述

ドイツ帝國議會議員よ!!

ドイツ大總統 アドルフ・ヒットラー 述

# 目次

トバ大場部 七〇五七・コバリヤ  
トバ番員 七〇五七

トバ宣明大司 七〇五七  
トバ宣明大司 七〇五七

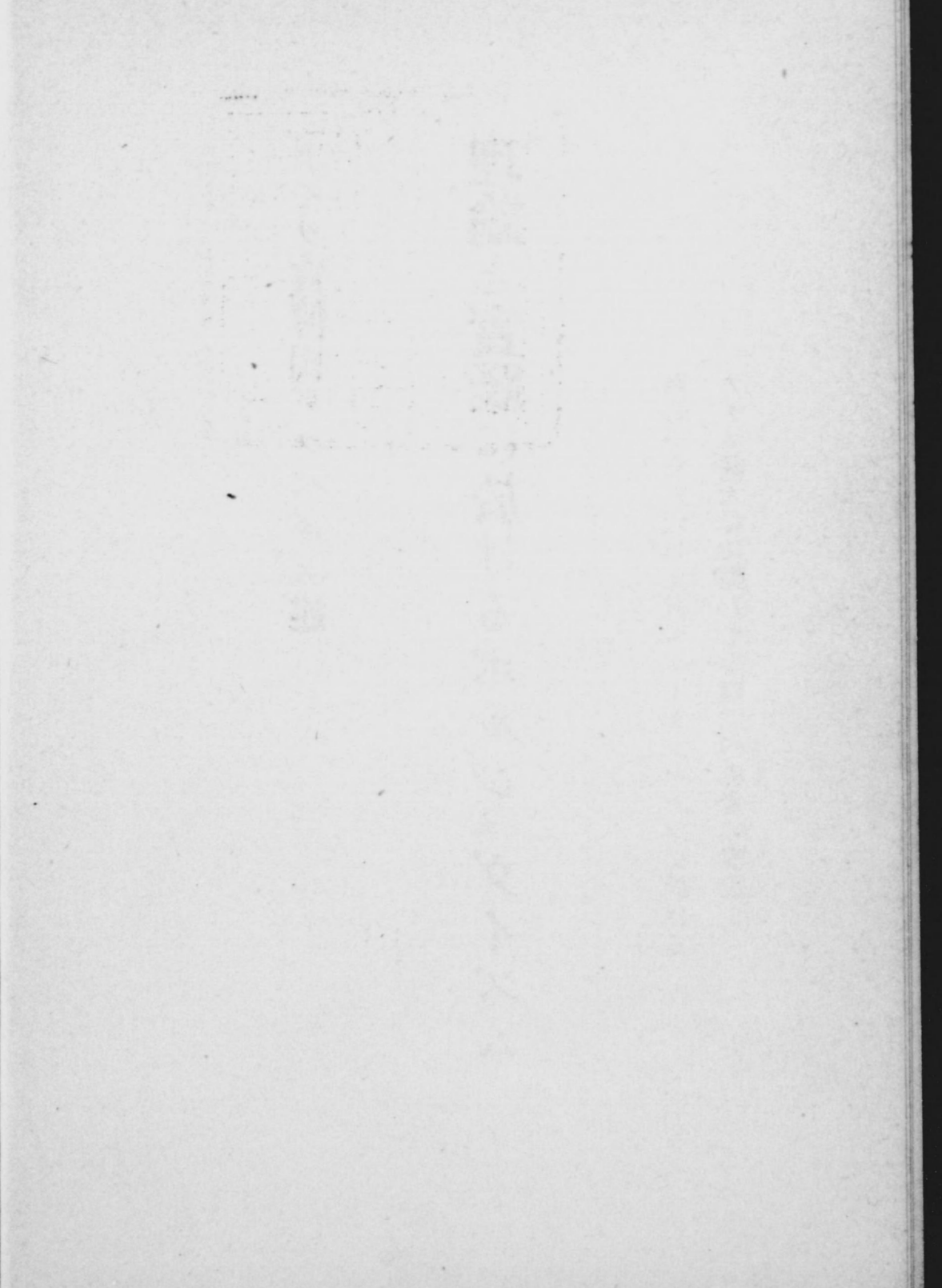


ドイツ宣傳相ゲッベルス述

理論と實踐に於けるボルシェヴィズム

西曆一九三六年九月ニユールンベルクに於ける

ナチス黨大會に際しての國家指導者の演説



## 理論と實踐に於けるボルシェヴィズム

我が總統閣下よ！

卿等、臺閣諸公よ！

來賓諸卿よ！

我が黨員男女諸君よ！

西歐諸國の政治的關心を有する諸領域において、マルキシズムにありては理論問題として、露國ソヴェート國家にありては、實際問題として顯現してゐるボルシェヴィズムの現象は、依然

として一箇の精神的現象形態・政治的實在性と見做され、此の如き實在性と文化人が精神的にも政治的にも和解せねばならぬならば、此の事は疑ひもなく國際ボルシェヴィズムの様相と本質構造とを洞破せんとする能力が致命的に夥多しく缺如して居る事實を思はせるものである。普通一般に理念及び世界觀の事と解されてゐる事柄と、ボルシェヴィズムと呼ばれてゐる事柄と

は全然別箇である。斯かる事柄に在りては病理學的・犯罪的妄想があるのみである。此の妄想たるや猶太人達が之を證明し得べく案出し、歐洲の文化諸民族を破壊することに依り、彼等に對する、國際―猶太的世界制覇を確立する目的を以つて實行されつたものである。ボルシエヴィズムは只猶太人達の頭腦の内に發生し得たにすぎぬ、従つてそれに傳播の可能性を賦與せしは獨り世界都市の舗道の不毛な地面の外にはない。ボルシエヴィズムを採用し得た人類は、戰爭と經濟危機とに依り胸臆を攪亂され、斯くして此の如き犯罪的妄想に陥り易き人類である。

茲で更めて斷乎と強調して置き度いは左の事である―我々國家社會主義者等は我々の政治的思惟の初期より今日に至る迄、此の如き世界危機に對する鬭爭を實に斷乎と實行し來つたが、我々は其際に決して反社會主義的乃至全資本主義的關心事を論難したのではない。ボルシエヴィズムに對する我々の鬭爭は社會主義に對する鬭爭ではなくして寧ろその爲めの鬭爭である。此の鬭爭たるや、眞正の社會主義を實現化し得るは、其の最も卑俗にして煩瑣なる生れ損ないの猶太的ボルシエヴィズムを戰場より驅逐することにより初めて可能となるとの深刻なる認識の結果より生じ來れるものである。ボルシエヴィズムに對する鬭爭は、併し、永續的成果

を以て、概して専ら次の如き國民、即ち社會主義的分岐の民族的形態をば、其の民族的生活の新なる一構造と見做す如き國民を待ち初めて實行し得る程のものであるが、斯る構造は二十世紀の力學的價值量と事實量との要求すらも充すものである。

市民階級は凡ゆる國々に於けるボルシエヴィズムに對抗して無力であり、而かもそれに對する鬭争に完全に不適當である。彼等は其の決定的諸傾向に於けるボルシエヴィズムに能動的に對抗せんが爲めには、彼等には世界觀の力及び精神的規定性、政治的信仰能力及び心靈的性格の強さが缺如してゐる。彼等にありては無くてはならぬ性格が不足してゐるのみではない、彼等は、機會さへあらしむればボルシエヴィズムと陳腐な平和を『惡事に警戒す』との綱領に基いて締結せんとさへ策する。苟も協定にして、市民的世界の之を過激的ボルシエヴィズムと締結するものなる限り、それは強者が弱者を征服するとの自然法則に従ひ、結局は、當然、市民的世界の對するボルシエヴィズムの勝利を醗酵して止まない。

ボルシエヴィズムは、一切の國民の楨杆たる可き下層階級をば、極めて無思慮に國家及び其の持續的諸理念に對して動員するとの理由よりしても、既に、自己と露骨に敵對せざる、他の

一切の政治的諸勢力、諸集團體を屈從せしめる。ボルシエヴィズムは、凡ゆる貴重なる人種的諸要素の潰滅を目的とする、一民族の極めて下賤なる本能の組織態である。該イズムが主眼として策する所は、殘忍な小數派を基調とせる・戰術的諸問題における、甚だしき犯罪的な狐疑に依り、彼等の偉大なる政治的目標たる、權力の絶對的獲得の方向に竿指す・或る種の權力團を確保することにある。

戰術的和睦の其の傾向は、然し乍ら原則的妥協を締結するとの、思ひ掛けない企圖と混同してはならない。それ所か反對にボルシエヴィズムは常に非妥協的でさへある。該イズムが妥協を策するは、妥協を無限界に超越して權力自體を奪取せんと、魂膽より來れるものである。該イズムは臆面もなく、權力の爲めの妥協により自己を幫助したる徒輩をば、權力獲得後において無爲無能化する。斯くの如き事實は、ブルヂョア諸政治家より云はせると大して喜ばしい期待ではない、ブルヂョア政治家連は西歐各國において、人民戦線の溫和な手段に依り、該イズムの毒牙を抜き棄て得ると、尙ほ信する。

ボルシエヴィズムは劣等者輩の獨裁である。それは虚偽を弄して權力を獲得し、暴力を用ひ



て權力を固持せんとする。該イズムは之を正當に認識し且つ其の最内奥の祕密を洞破し、斯くして之に對處するがよい。該イズムに對しては當然、貴重なる國民諸勢力を動員することに依り、之より離脱するべきである。蓋し該イズムは諸民族における姿なき敵對人種の組織體のなである。

或る領域においては、ボルシエヴィズムは古來眞正の大家たる如き様相を呈して居た——否定的宣傳の領域、虚偽及び偽善に依る諸民族の影響化の領域、つまり、偽れる世界諸事實の眩惑及び偽瞞に依りて此の如き政治的妄想の本質的と内的形態とに關する完全に歪曲された一面を媒介せんとする、手段方法を示す。虚偽は、ボルシエヴィズム革命の父たるレーニンの判斷に従へば、ボルシエヴィズム鬭争の許可されたる手段であるのみならず、最確定的手段なのである。シヨウベンハウエルは既に、猶太人は虚偽の師匠であると迄明言して居る、且つそれ故に、ボルシエヴィズムと猶太イズムとが此の點において極めて緊密な類似性を有する事は、最早や毫も怪しむには足りない。虚偽なるものは猶太的ボルシエヴィズムに依り至上の扱ひを受けてゐる。それは眞理愛好の紳士達を先づ差し當り當惑さして、之等の人士に何等かの内的

反對をば概して最早や不可能ならしむる。此れは併し、猶太のボルシエヴィストが達成せんと策する所のものである。彼等は、眞理愛好の人士が、其際に自ら應用するそんな大膽にして破廉恥なる自明性を以つて、やたらに虚言を弄し得る筈はないと思ふことを考へてゐる。

既に斯様に虚言は行はれ得る、ボルシエヴィズムは虚言を弄し、斯くして、惡心なき徒輩の間に其の感銘深き成果を獲得する。

其の宣傳はそれの本質上國際的であり攻勢的である。その目的として遂行する所は、地球上の凡ゆる諸民族の過激化、無政府化及び赤化にある。該宣傳は之れと同時に巨額の金錢を使用する。此の金錢たるや、ボルシエヴィズムの權力者達が其の爲め無反省に露西亞の全民衆を餓死させ零落させるとの事實よりしても既に、不可測のものである。斯かる宣傳は就中他の諸各國にとり危険になる。何故ならそれは諸外國において其の國に存在する共産黨、即ちコミンターンの諸分派をば、支點及び支柱として使用し得るからである。蓋し露西亞以外の諸國における共産黨は言ふまでもなく是等の諸國民を地盤とするコミンターンの外廓領域以外のものではない。コミンターンの助力を得てボルシエヴィズムは或る種の老獪に考案された陰謀、從つ



て各諸民族の政治的民族的な生活根幹を有するが故に、攻撃するに甚だ難事なる國際的陰謀を組織し敢行する。一國の最強烈なる民族的脅威と見做さる可きは、國外に存する何等かの裁判所から其の命令を受理する如き一黨派を國內自體において默認するにある。斯くの如くにして即ち、強力な共產黨を有する各國は、經驗が證明してゐる如く、多かれ少かれ其れの國內政策、社會政策、經濟政策、軍事政策及び對外政策においてスターリンの獨裁下に立つものである。例へば西歐の一群強はソヴェート・ロシアとの條約締結に際し、獨自の地盤に立つ共產黨はモスコより指令を受けることを拒否し、最早や軍隊内に潜入する勿れ、軍事的名聲を失墜する勿れと、主張する。

個々の國々における此の如き共產黨の諸分派の任務とする所は、莫大なる資金力に依り、モスコの實例に付き試練を経たる、或る種の無類に老獪なる宣傳戰術に依り、ボルシエヴィキ革命を準備し實現するにある。此の宣傳なるものは、諸民族にボルシエヴィズムの眞相を瞞着し、又ソヴェート・ロシアより洩れ出づる事實報告をば、徹頭徹尾默殺するか、でないまでも之を完全に否認する態の目的を以つて現はれる。蓋しソヴェート・ロシアは自國の内政狀態、就中、開

化せる西歐における自國のそれに關する真相を報告するは、何よりの禁物である。がボルシエ  
ヰキの理論の害毒が極めて阿諛的にして魅惑的である如く、言はばボルシエヰキの實踐は之と  
同程度に極めて畏怖され、戰慄さる可きものがある。屍の山が該イズムの行手を教示し、血と  
涙との大洋が此の如き不運な國土に氾濫する。人間生活自體は此の國土においては最早や空漠  
たる觀を呈する。恐怖行爲・謀殺及び虐殺は一切のボルシエヰキ革命の特質的目標をなす。該  
イズムを基調とせる革命は露西亞に於いて成功を博し、ハンガリー・バイエルン・ルール地方及  
びベルリンに於いて敗北を喫し、目下スペインに於いて權力獲得鬭争の敢行中である。

苟もボルシエヰイズムが指揮を司る處では、該イズムは理論及び實踐間の對立の事などは之  
を棄てて顧みない。斯かる場合に支配を振ふは騎銃に機關銃である。併し該イズムは全世界  
の到る處で此の如き老獪に案出されたる宣傳方法を用ひて、其の真相を瞞着せんと策する。プ  
ルジョアの歐洲は斯かる情勢の理解に何らの微光をも齎らさない。此の世界は反覆さるる言辭  
——他國の内政狀態に没入する勿れ——を以つて決斷を鈍らせてゐる。とは云へ今日露西亞にお  
いて現實的事實と化して生起してゐる問題、スペインにおいて獲得鬭争敢行中の問題、歐洲の

他爾餘の諸國家において不治の脅威を與へる微菌に依り生起してゐるかに見ゆる問題、之れは全世界の關心事である。此の問題たるや全民族の凡ゆる政治家連の一箇の緊急事項なのであるが、是等の人々は、自己の責任に因り歐洲をば最深刻なる危機及び潰滅に陥入れるとの辯明を負担せんと欲せざる以上は、此の如き問題と當然妥協せざるを得ない。然り、ボルシエヴィズムの問題は歐洲一般の存亡に關する問題なのである。斯かる場合に亡靈は否定され、斯かる場合に人は敵味方何れかに所屬すべきであり、然かも此の事たるや、斯かる決斷に依りて規めらる可き一切の歸結を以つて敢行されねばならぬ。

此の場合に更に一つの問題たる、ボルシエヴィズムに於ける猶太教の問題を説明するが肝要である。此の問題は専ら獨逸において公然と論議し得る。何故ならば猶太教一般を論議するは、他の諸外國においては、宛かも往昔の獨逸に於けるが如く、危険視さる可きであるから。猶太人がボルシエヴィズムを創造し今日之をば信奉して居る事實は、最早や毫末も疑ひの餘地がない。往年の露西亞の指導層はかくも根本的に除去され、抹殺された、それ故猶太教はボルシエヴィズム一般より見れば唯一指導層となつて殘存して居る。斯くしてボルシエヴィズム

内に於ける一切の係争は或る程度まで猶太教徒間に起きる家族係争にすぎない。且又モスコに於ける最期の極刑に際し問題なりしは、只だ猶太人達が權力飢餓及び潰滅意志に因り猶太人達を射殺せし點にあつた。猶太教をば常に緊密一體なりと假想するは、周知の誤謬である。猶太教徒達が異體同心であるのは、彼等一民族的に卓越せる多數派の内部にありて少數派として脅威を感じて居る場合に限られる。斯様な問題は露西亞において今日概して最早や何等論題である筈はない。猶太教が權力を掌握し居る場合は——而して此の事は只露西亞に丈け起きてゐる——、人種的壓迫を蒙りつつある間、沈黙せるかに見えた、その古々しい猶太的諸對立が、又しても突如と勃發し來つた。

ボルシエヴィズムの理念、言はば人民一般の潰滅の極惡非道の目的に依れる凡ゆる人倫及び文化の狐疑的廢滅に關する理念は、唯だ、猶太人の頭腦の所産にすぎなかつた。其の戰慄すべき血液滴る殘虐におけるボルシエヴィズムの實際行動は、猶太人達の助力を待ち初めて表現し得る。自明なる如く、是等の猶太人達は互に陰謀し合ひ、彼等は西歐に於いてはボルシエヴィズムにおける彼等の配當及び責任を回避せんと策しつつある。斯様な事は猶太人達が之を始終

實行し來れるものであるが、彼等はそれをば永遠に實行して止まぬだらう。

扱て我々はボルシエヴィズムの理念を認識し來つた、そのみならず、世界中に於ける唯一者たる我々は、該イズムより生じ來れる凡ゆる危険にも拘らず、是等の主謀的犯罪者連の正體を見届け且つ彼等に人類全體に對して聲高に聞知し得る如く彼等を名指して呼び掛けんとする勇氣がある。獨逸には猶太人を猶太人として表明する事は刑務所を以つて所罰された時代があつた。我々は斯様な事を當時それにも拘らず敢行したのだつた。今日においては猶太人を猶太人と見做し、ボルシエヴィストを世界の主謀的犯罪と見做す事は、尙屢々上品な遠慮からか、或ひは全的に愚弄されたる人倫的騷擾を以つて拒否されて居る。併し乍ら我々は、獨逸をして曾つて此の人種の寄生的危險性を納得せしめ得たる如く、やがて亦世界に對して注目の眼を投げ與へさせ、世界に對して猶太教及びボルシエヴィズムの本體を明示し得るだらうと考へる。かくして我々はやがて疲勞を回復し、斯程に數多の諸國を震動させてゐる怖る可き危機及び動搖に於いて、幾度となく諸民族をして此の如き難治なる危険を注目せしめ且つ彼等に向ひ——猶太人は犯罪者だ、猶太人は犯罪者だ！と絶叫して止まざる秋も到來しよう。



我々が知る如く、此の叫びは猶太教の醜く歪曲された顔貌に對する鞭撻である。猶太教が是等の對立が尖鋭化するにつれて民主主義的被蓋において自己を蔽はんとするは、猶太教には何の利益もない。此の事は餘りに惻巧過ぎてゐるが故に、思惟する人間に對して影響を與へ得ぬであらう、それは只だ俗物的教養の爲めの安價なる慰藉と見做され得るにすぎない。猶太教に此の言辭は叫ばれし通りにやつて來た、何故なら斯かる言辭は猶太教に對する決斷を鈍らせるから、此の所謂ボルシエヴィズム的民主主義、イギリス及びフランスの諸新聞が屢々尙、所謂民族社會主義的獨裁に敢えて對峙せしめんとする典型は、恐怖行動、謀殺及び流血より湧出づるものである。數年毎にボルシエヴィズムの權力支配は、此の如き言辭を害蟲箱の中から取り出す、然かも、それが或る種の戰慄すべき、且つ一切の情操を攪亂する恐怖統治に従ひ、歐洲をば積極的に回想せしめんとする必然性を感知する度毎に、斯くなすものである。斯かる場合突如と共產黨宣傳局においてはソヴェート・ロシアにおける新體制の施行、就中内密な、普通選舉權に關する考案されたる捏造記事が出現する。併し乍ら斯かる事實は全て詐欺にして、教養的俗物性の健忘症及び馬鹿の一覺へを利用せるものであり、彼等はいかに無數に歐洲に住ん

で居ることか！實際上ボルシエヴィズムは有史以來の粗糲なる流血支配であり、恐怖支配である。猶太人達が斯くの如き支配權を考案し出し、斯くして之と同時に其の統治を攻撃不可能たらしめ、且つ斯かる支配權をば今日行使しつつある。我々國家ナチスは、我々の人民支配權を殆んど隔年毎に人民における一箇の、親密な、普通選舉を確立するに足る程に、公明正大である。ボルシエヴィズムは人民、勞働者農民の國土を問題視するが、併し其の面貌は權力である。

該イズムは凡ゆる人間の頭腦中に特定の一表象として宿る。此の表象は主として専ら人間自體に依り創造されたものである。そのために人間に役立つは該イズムの宣傳である。ボルシエヴィズムの表象は何等かの人間、何等かの人間集團若くは何等かの民族の個性及び性格に應じて人爲的に創造される。それは凡ゆる場合に於ける其の眞理内容に於いて何物に在りても基礎付けられてゐない。例へば、大國の代表者共は、他の一切の主要都市に見らるるモスコウに於ける新設地下鐵道の視察に際し、若くはボルシエヴィキの接待する彼等の國歌の聽聞に際し、其のボルシエヴィズムに關する其の古めかしい諸見解をば突如と而かも何等の根據なく船外に投げ棄て、而して他の一切のイズムと妥協する事實は、時として見らるる事實である。モスコ

に於ける赤化せる猶太人は彼等の紙製の家を心得てゐる。恐らく承認する可きは、彼等が内密にブルジョア世界に入る事により、私かに満悦を感じ且つ感泣する事である。

我々に對する彼等の憤怒たるや激甚である、何故ならば彼等は、我々が彼等をば認識することにより、歐洲に普及せるボルシエヴィズムの表象を根柢より破壊せんと著手する事實を了解してゐるにある。我々に對する彼等の憎惡は極めて深刻である。斯くの如き憎惡は我々の政治的争闘の一番素晴らしい賞牌の一つである。我々は彼等の面皮を剥ぎ、而して世界における彼等の正體を曝露する。

既に上段において強調せし如く、數多の諸民族がボルシエヴィズムに就いて自ら物する表象は、主としてボルシエヴィキ的宣傳の成果をなす。該宣傳は欺瞞術に長じてゐる。例へば全世界はボルシエヴィズムを信賴して、モスコフ政府がコミンタンと全然無關係であると迄吹聴してゐる。此の事は周知の如く想像し得る詐欺中最も醜怪にして破廉恥なるものである。蓋しソヴェート政府及びコミンタンとの間には諸任務が甚だ手際よく分配される。併し乍ら兩者を相互に無關係なりと信ずるは、宛かも、國家社會主義運動を國家社會主義政府と緣故なしと主張



せんと欲すると、同一である。

ボルシエヴィキの宣傳は廣大な計畫に則して行はれる。其の目標とする所は世界攪亂にある。斯くの如き宣傳は爾餘の諸各國に於いてボルシエヴィズムに關する誤れる表象を呼び醒ましてゐる。此の表象は言ふまでもなく幼稚なるものの中の最幼稚なるものである。とは云へ斯かる表象は實存を續け、而かも根強く亦其の活動を敢行しつつある。

然るにボルシエヴィズムの實踐活動は之と趣を異にする。此の如き實踐も亦現存するが故に之を否定することは不可能である。それは其の戰慄すべき軌道を流血を以つて色彩つた。該實踐は全世界を其の紛亂的渦中に投げ込まんとして策する。それは、諸民族に對する支配權を確立せんとする・猶太教の大々的計畫である。それ故に亦言葉の最眞實な意味に於ける此の如き危險に對する鬭争は一箇の國際鬭争である。斯かる鬭争は獨逸において開始され、獨逸において雌雄を決せられ、アードルフ・ヒットラーが其の歴史的指導者である、我々すべては其の支持者であり而かも同時に一箇の偉大なる歴史的・世界使命の執行者である。苟も兩極間の和解なるものは有り得る筈がない。歐洲を再興せんと欲せば、是非ともボルシエヴィズムは之を當然潰滅す

る必要がある。

猶太教が知る如く、既に弔鐘は鳴り響いてゐる。猶太教は躍氣となり獨逸に對して全勢力を動員せんと策しつつある。それは熱病的武裝において自己の双力を確立せんとする。それは國家社會主義的獨逸の實存を以つて自己自身の實存の恒常的脅威と見做す。それは露西亞において愉快に居住し、且つ隨意に、安固に存在を續けてゐる。それは彼の新興ソヴェート有産者を法外に怯懦にし、圖太くし、虚妄にし、奸惡にし、狡猾にし、鐵面皮且輕佻にしつつある。斯かる尊大なる猶太教徒達は、今や、其の往昔の瑣細なる欺瞞をば堂々と一億六千萬の民衆の双肩において廣汎に敢行するやも知れず、彼等は流血を熱望して止まぬ壓制者である。従つて彼等には理想といふものがないのみか、諸民族を破滅にすらも陥入れる、言はば彼等は、必然に諸國民を苦惱させ人間を不幸に突入れる・神の叱責そのものに外ならない。

既に強調されし如く、ボルシェヴィキ的宣傳は一切の聴衆に對し賢明に對處するを常とする。該宣傳は、必要に應じて、急進的に振舞ひ、溫容に振舞ふ。幾多の例外は、テロリストのデミトロフがコミターンに向ひ、或ひは猶太教徒のリトヴィノフが國際聯盟に對して演説を試みて

ゐる事である。此の宣傳は察するに一面に於いて敬虔的であり他面に於いて無信仰的である。それは考慮といふものを識らない、此の場合目的が手段を神聖化する。該宣傳の全世界に於いて使用するは一箇の複雑化する機關であるが、此の機關たるや個々の諸各國に於ける共產主義的諸分派より構成されて居る、それ故、此の如き活動に當りては、斯かる機關を運用せんが爲めに、一箇の槓杆が必要である。該機關を活動せしむれば、必然に悲劇が生じ来る。斯かる時は何時か國家は、或る種の潜行活動に依り掘返されるが故に、崩壞の止むなきに到る。斯様な活動は從來重大視されない迄も過少評價され來つたのである。

我々國家社會主義等は幸ひにして、ボルシェヴィズムに對處して何等顧慮を施す必要ない状態にある。我々は秘密内閣の言辭を語るのではない。我々が語るのは民族の言辭であり而して我々の所望は亦、我々が諸民族に理解される事である。我々は幸にも、諸問題を高調し得る。我々は斯様な事に對する義務すら感ずる、蓋し世界は正當に之を認識する必要がある。我々は歐洲が直面せる危險に就いて拱手傍觀し得ないし又してはならぬ。政治的決斷を敢行するは、差し當り該民族及びその政府の問題である。定説と見解をば宣言し、來る可き大慘事を示現

し、不安を公告するは、運命により洞察力を賦與され更に自己の聲を世界に對して聽かしむる可能性を賦與されし、各人の權力であり義務である。ボルシエヴィズムを暴食する徒輩は該イズムに因り滅亡するのみ！

それ故我々は本會議において左の如き世界危機に對して警報を打鳴らし、ボルシエヴィズムの實踐的活動を指摘し、該イズムの理論の大體を見届け、斯くして學べる可き、忘却する可からざる時代史の理解に寄與したい。

斯くの如くにして余は問題そのものに到達する――

西歐の勞働者は往々ソヴェート聯邦を以つて無產者國家、從つて自己の國家と見做す。露西亞に於いて勞働者階級は資本家的搾取を『清算』し、而して無產者獨裁を樹立したかに見える。同國に於いて解放された勞働者は自己の國家たる『勞働者の祖國』を鑄造したかに見える。

扨て、此の如きマルクス主義的科學を發見したるは、猶太人、例へばデヴィット・リカルド乃至マルクス・マルドハイであつた。猶太人達は亦一切の勞働者運動を組織してゐる、例へばラッサール・ヴォルフスゾーン、アドラー、リーブクネヒト、ルクセンブルグ、レーヴィイ等である。

猶太人達は彼等の安全な編輯室から労働者を市街戦に追ひ出した。バウル・ジンゲル、シツフ、コーン等の如き猶太人は、マルクシズム—ボルシエヴィズムの資金提供者であり、また金融者でもあつた。

ソヴェート政府内に會つて居居り、今日尙も居居るは、労働者ではなくして、殆んど専ら猶太人である。最近モスコーに於て射殺されしボルシエヴィズムの指導者には、労働者が毫も見られず、大部分猶太人であつた。今や猶太人相互間の抗争に因り勝利者として擡頭し來れる三頭政治が、ソヴェート聯邦を獨裁的に統治しつつあるが、此の政治たるや左の人々より構成されてゐる——

ヘルシエル—エフダ(ヤゴダ)、—ゲ・ベ・ウの頭目。ラザアルス・モゼスゾーン・カガハヴィツチ、スタリーンの鼻に當り交通人民委員の地位にある。ヒンケルシユタイン—リトヴナフ—外務人民委員の地位を占む。之等總ての人々は獸的猶太人である。

今日ソヴェート聯邦に支配するは無産者獨裁にあらずして、爾餘の全人口に對する猶太教の獨裁である。



ボルシユヴィズムの政治的煽動に對應するは、經濟的領域に於ける該イズムの民衆惡煽動である。ボルシエヴキ國家内の労働者は集團的生活を有名無實に營めるにすぎない。尙一千九百三十二年四月に『ローテ・ファーン』誌は選舉檄中に左の如き要望を洩した——『賃銀荒廢の處分、勞賃値上、即ち一日七時間労働に始り、一週四十時間労働（之は賃銀交換を滞りなくする）に至る賃銀の値上。』

扨てソヴェート聯邦自體の發達や如何？　バンの値段は一千九百二十八年より一千九百三十五年に至る間一キログラムに付き九コベツクより七十五コベツクに騰貴してゐる。ソヴェート労働者の月額の賃銀は、パン價で計算し、七十八バアセント半丈け下落してゐる。露西亞労働者は生活を營む上には、是非とも今日スタハノフ體制に則して労働せざるを得ない。斯かる體制は労働規律をあまりに著しく高揚し居るが故に、労働者大衆は此の如き規律に到達し得る筈はない。勢ひ其の結果は賃銀減額となる。

一千九百三十二年に於いて『ローテ・ファーン』誌はソヴェート聯邦に於ける或る同志の住宅關係に關する一つの情報を公表した。此の者の使用するものは電燈付き、中央暖房付きの大き

な二間丈けである。

所で現實社會は斯うである——共產黨紙『レニングラーズカヤ・ブラウダ』中に婦人労働者の一人が左の如く記してゐる——『わたしの一歳半の俸、わたしの弟及びわたしの結核を病む妹と一緒にわたし達は薄暗い小さな部屋に住んでゐます。共產黨都市委員會の席上での、わたし達の告訴は少しも顧みられませんでした。従前通りわたし達は此のやうな信じられない境涯に暮らしてゐます。』

自己の養育に當り露西亞労働者は、——養育材料はパン、キャベツ・スープ、碾割である——其の収入の七十五割丈け支出しなければならぬ。同國の労働者は獨逸労働者と同一程度に扶養されんと欲せば、平均して其の賃銀の倍以上を扶養の爲めに使用せざるを得ぬであらう。

世間周知のボルシェヴィキの標語は何等かの自由労働權の創造に關する標語である。『ローテ・ファアーネ』誌は一千九百三十二年六月二十日左の如く記してゐる——『モスコー・レニングラード、バリー、ノヴォジビルスクに往き、而して學べ、——労働、パン及び自由は之をボルシェヴィキの實例に則して初めて戦ひ取られ得る。』

既に惡評あるシユタハノフ監督人制度に則する、ソヴェート労働者の労働方法は、奴隷労働なる名稱を受くるに相應しい。斯くて、文字通りの奴隷制を再び施行する事が、ソヴェート聯邦に依然として留保され來つた。無慮六百五十萬の人間がソヴェート聯邦強制労働所に於いて現世の煉獄を啖いてゐる。三百の巨大なる強制労働所——集合所に於いてボルシエヴィズムは行く／＼は彼等を驅逐して止まぬ。強制労働者連に依り工事された、スターリン——白海運河畔には、數百千の屍が埋葬されてゐる。左に述ぶる猶太的ゲ・ベ・ウの指導者は運河工事を虐殺的速度を以つて強要しつつある、——ヘルシエル・ヤゴダ、ダヴィットゾーン、クワスニツキー、イサークゾーン・ロンテンベルグ、ギンスブルグ、プロートスキー、バーレンゾーン、ドルフマン、カークネル、アングルト等々である。猶太人は『無産者の祖國』の上にボルシエヴィキの鞭を振り上げてゐる。

ボルシエヴィキの宣傳は、勤勞農民階級を資本家的搾取の前脚から解放し得たと、豪語する。ボルシエヴィズムは其の赤色農民囚人制の爲めに所謂『農民インターナショナル』を創設してゐる。同インターナショナルの綱領に曰く——『我等は中間農民に對する租稅負擔の廢除及び租



税免除を要求す、我等は農耕農民子弟に對する大土地所有の無償買収及び土地の無料提供を要求す。』

所で現實社會は斯うである——往昔に於いて西歐全體を共養したる、ソヴィエト露西亞の穀倉は、最早や、自己の人民を必要に應じて扶養する事すら不可能である。幾百萬の人間は餓死しつつある。ゲ・ベ・ウーのテロ機關と農民層との間には無慈悲なる鬭争が荒れ狂ふてゐる。猶太人たるカガノヴィツチ、ヤゴダ及びバウマンは強制集約化を急進的に實現化し來り、此の實際に千五百萬以上の農民が彼等の家族と諸共に肉體的潰滅に陥つた。

ボルシエヴィキの農民政策の主要獲得物は千九百三十二年八月二日の恐怖法である。同法は農民の一切の『犯罪行爲』に對し死刑若くは十年の懲役乃至強制勞働を科する。同法適用に當り猶太的ボルシエヴィズムは幼童すらも彼等自身の兩親の意思に反して濫用する。千九百三十四年五月二十八日の『イスヴエスチャ』誌は、或る少女が、集合穀物特別斡旋を業とする父親を告發する事實を報告してゐる。父親は恐怖法に依りて確定された死刑の爲めに斃れる。小供は公然と賞讃される。

獨逸體制内に於いて獨逸共產黨は其れの惡評ある兵士綱領中に次の如き要望を提示したことがある——綱領十二、一切の不愉快なる上官の忌避。綱領二十、強制入營の撤廢、『死屍的服従よりの解放』及び『軍隊の民主化』とを標語に叫んだ。

ボルシェヴィキ的獨裁の確立後の曉において併し乍ら勞働人民の強制動員化が必然に到來してゐる。服従せざる徒輩は射殺されるか、でない迄もチエカの流血監に護送される。任意の民衆屯田兵に代る格一的な命令權、鐵の如き無產者規律、最嚴肅なる入營、軍事裁判、『同志指揮官』が小中尉官、大尉官に變り、赤色元帥にまで變る。而して破廉恥にもソヴェエト猶太人たるラビノヴィツチは、軍隊の有名無實な『民主化』が『軍隊侵略の單なる一手段』にしか過ぎざりし事を公然と承認してゐる。

其他の、専ら信ぜられたボルシェヴィキの合言葉は『婦人解放』である。婦人は勢ひ有名無實に家庭的羈絆より解放され而して男子と完全に對等の位置に据えられる結果になる、『革命なるものは、家族概念及び家族關係が存續する限り、無力なり』と千九百二十四年のコミンターン會議に於いて斷乎と確立された。ソヴェエト聯邦の實踐活動においては併し乍ら激讚され

たる婦人の自由は左の程度に成功を獲得しつつある。婦人は男子の氣儘に庇護なく放任される結果、必然に其の生計費を最も困難なる肉體勞働に依り取得する程である。のみならず惡評ある強制勞働所に百萬以上の婦人が充満しつつある。

更にボルシエヴィキ宣傳の豪語する點は、婦人をして兒子に對する配慮を無からしめたといふにある。幼兒は之をソヴェエト國家が引受けたといふ。然るに之と同時に黨局の出版物は惡化せる少年群及び青年犯罪者が間斷なく増大せんとしつつある傾向を自白せざるを得ない。ボルシエヴィスト達の特別強力なる宣傳手段は墮胎禁止令撤廢に關する要求である。扱て十八年以來存立せる無制限なる墮胎實踐の成果は併し甚だしく荒廢せるものがあり、従つてソヴェエト政府は今後墮胎すら禁止せんとしつつある態である。

ボルシエヴィエキ的婦人宣傳は、賣淫は之が有産者社會の必然的害惡なる故に、共產主義に於いて當然消滅する運命にありと、主張する點に於て、虛妄の頂點に到達する。賣淫なるものはソヴェエト聯邦に見らるる程、一般的現象を呈する國は世界中の何處にもない。既に勤勞婦人達は、自己の仕事場を安固ならむるに當り、其の上役の一切の願ひを諸々として默認せねば

ならない。『婦人天國』に於いて婦人は文字通り猶太的ソヴィエト坊主連の自由世界である。

リベラルな西歐地方の光彩なき政治家がソヴィエト宣傳に落ち込むに至れる理由を明示するは、千九百三十三年の饑饉期中に行はれたヘリオットの『研究旅行』が其の特別粗雑なる一實例である。ナチスを毫末も疑はざるニュウヨーク猶太人新聞『進め』は此の事に關して左の如く書き記してゐる！

『代表到着前の或日キエフの全人民は眞夜中の二時に動員を受け、——本通の掃除と家屋の裝飾とに當つた。數萬の人足は、放置された、不潔な町に或る歐洲的美觀を賦與せんと、大童になつてゐた。生活手段の凡ゆる配給所、協同販賣所等々は扉を閉ざしてゐた。街の立ちん坊は禁止されてゐた。惡化せる青年群、乞食群、飢餓線を彷徨せる群民、斯かる人間群は總て之地上より消滅せるかの觀を呈してゐた。十字街には土民兵が刷毛をかけられし馬に乗つて傲然と騎行してゐた、馬の鬣に白いリボンを組み合はして——斯かる情景は、實に空前絶後の情景であつた』

ボルシモヴィズムの宣傳工廠より洩れ出づる特別見本は軍隊廢止に對する要求、『一般的にし

て完全なる武裝解除』である。『再び戦争する勿れ、』『戦争に戦争を以つてせよ、』『戦争準備に對して戦へ、』なる標語の下に例へば獨逸共產黨は當時次の如き内容の一箇の人民決定を提出してゐる——『各種の裝甲艦及び巡洋艦の建造を禁ず。』而して既に千九百三十二年二月に猶太人のヒンケルシュタイン・リトビノフはゲンフ武裝解除會議の一つを利用して、世界の『完全なる武裝解除』なる合言葉を告知してゐる。此の如き虚妄なる方法を以つてしては今日に至る迄事態に何の變化すら現出しなかつた、同年七月に於ける同リトヴノフ自らの詳説が證明する如く、同氏は再度『完全なる武裝』を『平和の爲めの最大限の保證』なりと述べてゐる。

斯くの如きがボルシェヴィキ的宣傳である。他方現實世界は如何なる様相を呈するか？ 赤軍の平時兵力は徵集年齢の低下に依り二百萬に向上してゐる。之に加ふるに九百萬乃至一千萬の試練を経たる常備軍がある。されば戦時に於いては一千百萬、而して當分一千四百萬すらも動員し得る。戦闘開始されるや否や、赤軍は百六十乃至百八十の歩兵師團及び二十五の騎兵師團を行進し得るだらう。赤軍の元帥ツカチエウスキーは最近漸くタンク數の増加を二千四百七十五パーセントと記入してゐる。



赤軍の空中兵器力は飛行機六千臺を算す。第一線の飛行機は三千百臺の重輕爆撃機、偵察機及び千五百臺の追撃機に分れる。爆撃機兵器は斯くして遙かに先頭に居て赤色空中隊の攻撃性質を見届ける。爆撃機は戦時にありて第一線の襲撃を敢行し、更に敵が防禦の支度をせざる以前に敵に突進すべきものである、ソヴィエト戰略家の見解に従へば来る可き戦争は以前の如き宣戦に依らずして敢行される。ソヴィエト政府が今日既に世界最大のウ・ボート隊を保持する事實は亦一般には知れ渡つて居ないかも知れない。

赤軍の攻撃特質に對應するは赤軍の指導者の攻撃戰略である。ツカチエウスキーは世界的規模に於ける勝利に輝けるボルシェヴィキ革命の『自明權』に就いて語つてゐる。『該革命は、』とツカチエウスキーは云ふ、「原始的暴力を用ひて、一切の隣接諸各國に直接的に働きかけ、全世界を包圍せんと策するであらう。其の最重要なる道具は當然、其の軍事的威力であらねばならぬ。」

斯くして最も信じ得べからざる事實は斯うである——此の如き一目瞭然たる帝國主義的武裝にも拘らずボルシェヴィキ的宣傳は亦今日尙豪語して曰く、モスコーは一箇の『平和政策』を敢



行すると。『露西亞ソヴィエト聯邦には、何等自領土擴張の野心がない、本聯邦は、平和維持が問題なら、何時なりと適宜に相談に乗る考へである、』斯くリトヴノフ氏は世界に對し臆面もなく虚言を弄する。而してフランスの共產黨指導者トーレッツは其の著『人道』中に公言して曰く、——『我々が指摘せし如く、平和問題はソヴィエト聯邦の問題と不可分ですらある。』

斯かる虚偽宣傳に最も粗暴に對立する軍事條約の攻撃政策である。此の如き條約はモスコー並びにバリー間に於ける千九百三十五年五月二日の及びモスコー並びにブラーグ間に於ける千九百三十五年五月十六日の『集合安全』なる標語の下に締結されてゐる。

セント・デニスの市長、以前コンミニスト而して今日『佛國國民黨』の指導者たるジャツクケエ・ドリオは、先頃佛國ボルシエヴキ軍事條約の眞實の目的を次の如き言葉を以つて特質化してゐる、『而して若し共和國大統領がカヒン、總理大臣トーレス外務大臣のベリー、之等の人士が一事を處理しさへしたならば、彼等はモスコーより命令されし獨逸に對する戰爭を手當り次第に開始し、斯くしてソヴィエト聯邦は其の西部國境における重荷を卸すであらう……』

モスコー並びにブラーグ間の軍事條約は之と趣きを異にする。ソヴィエト飛行士にして黨

員たる一人は、此の事に關してフランス新聞『グランゴアル』の代表者に千九百三十五年十二月十五日次の如き陳述を寄せてゐる。『ブラーグの前後に飛行機の支點を創造する事は我々の理想とする所である。其處から我々は飛行時間を半分程縮減し得よう。従つて作業材料は半分丈けありさへすればよい、その結果我々は三噸の爆裂物を樂々と携帯し得よう。』其の間にチエツコスロバキアの領土には斯かる赤色の飛行港が數多創設された。それは近時三十六に増加してゐる。プレスブルグに於いて發行中のチエツコスロバキアの總理大臣の時事新聞『スロヴエンスキイ・デニク』は、狼狽的率直さを以つて是等の赤色飛行機支點の目的を左の如く洩らしてゐる——『飛行場が國家防衛の目的の爲めに必要になる時は、飛行場で遊戲に耽けるは何よりの禁物にならう。其處は此の如き防衛に當り我々に援助を與へる一切の友人に役立つであらう。』換言すれば、問題の三十六の飛行港を出發して赤軍の爆裂機は歐洲に對し攻撃を開始する。此の如き脅威が如何に現實的なるかは、左の事實——戰略的に最重要なる中部歐洲の諸箇所が赤軍戰艦の砲撃に依り瞬時にして潰滅され得るであらうとの事實——の必然的結果である。チエツコスロバキアの領域に於ける赤軍の飛行諸點より到達し得べきは、ドレスデン(二十分)、

ヘムニツツ(十一分)シユレジーのエン工業地帯(九分)、ベルリン(四十二分)、ウィーン(九分)、シユテールの兵器工場(十七分)、ジュタイエルマルクの工業地帯(二十七分)、更にブタベストは飛翔後僅か六分にして塵埃と遺灰の巷と化し得らる。

斯かる事實はボルシエヴィキ的『平和政策』の眞實の情景である。

余が一年前此の席上に於いて、露西亞において僧侶がどれ程殺害されしかを、正當に陳述し來り、他の諸各國に於いて各時代に類似の事が反覆され得る危険を指摘せし折、外國の教會團すらが此の如き警告を輕視し、而して教會團は、ボルシエヴィズムは今や正體を變じ居り且つやがて僧侶の自由を懺悔するに相違ないとの幼稚な見解を代表してゐた。彼是する内にスペインの諸事件が余に痛切な感銘を與へたのだつた！『マドリッド政府が統治權を行使するにおいて、全領域には最早や公共の教會は片影だに見られない、』と新聞紙『デアアリロ・デ・ラ・マリナ』は書いてゐる。而してカトリック教會自體は、バルセロナ人の僧侶が殺害され、剩へ教會全部が潰滅されたと、公然と告示してゐる。

之はボルシエヴィズムの支配下に於ける懺悔の自由なのである！

西方の民主々義者連に無害に且つブルジョア的に見られんとして、ボルシエヴィキ派の『外交官』達は、紳士風の態度を取つて來た、その事が例令如何程困難であつたにもせよ、西歐に於ける斯くも多數の賢明なる政治家が、ボルシエヴィズムは世界革命を放棄せり、如何となれば同國の代表者連は燕尾服を着、白色のカラーを付けて來場すればなりと、信じて居る事實を見、ボルシエヴィキ的戰術の識者たる我々は私かに苦笑すら禁じ得ない。

斯かる演技は併し乍らソヴィエト聯邦の猶太的權力保持者より云はせると依然として慊らざる觀がある。さればボルシエヴィズムは、首尾よく無害性の證明を取得する爲め、一箇の『憲法』を草案し出した。同憲法中には『教養權』なるものが四十パーセントの文盲等の面前で宣告されてゐる。更に同憲法中には、苟も猶太的獨裁者の意見に違背せる徒輩を死刑に科する程の國土に於いて『言論及び出版物の自由』が語られてゐる。而して我々は此の實例は之を只今漸くトロツキーの訴訟問題に於いて目撃した如くである。此の體制は厚かましくも、『個人の不可侵、住居不可侵、信書秘密の不可侵』を語らんとする、所が反面斯かる體制は日毎にチエカ監獄に絶望に悩む幾千となき人間を桎梏に詰め込み、追放し、若くは射殺させてゐる。

フランスに於ける共產主義者連の壟斷せる『人民戦線』は彼等の黨指導者たるトーレスの言葉を借りるならば『民主々義的自由擁護、其れの保持及び擴大の爲め』鬭争しつつある。スペインに於いて『人民戦線』は權力を掌握するに到つてゐる。『民主々義的自由』は同國に在りてはマドリッド及びバルセロナの刑務所の囚人の過剰な監禁、非共產主義の全分子の逮捕及び射殺の點にある。斯くしてマドリッドのみにても從來七千人以上が殺害され來つた！

『自由及び人權』なる言葉は、共產主義宣傳に於ける最貴重なるその一つである。斯かる言辭は既に其の革命歌中に之を見らる。ソヴェエト聯邦に於いて自由及び人權なるものが、果して如何なる狀況にありやは、之をソヴェエト聯邦より來る諸通信中の次の文句が立證する所である——

『……………斯かる場合數百名の無權利者は宛かも家畜同然に空虚な、冷い荷車に詰込まれる。彼等は當然、白海やシベリヤに護送される……………その有様たるや、既に或る指導的コンミニストは我々に對して斯う語る——「お前等は斃死するがよい！我等はお前等残らずを打殺しはせぬが、お前達は斃死して貰ひ度いんだ……………」』



これは千九百三十五年八月十日付の通信である。

『……危機は又しても切迫せるかの觀がある。併し乍ら望むらくは千九百三十二年が再來せざる事である。此の二年間には一年中に追放者の殆んど八十パーセントが死去してゐる。』

千九百三十六年六月七日附の通信。

千九百十七年十一月十六日レーニンは『國籍權の布告』中に前期のツアー王國の人民に自治制を約束した。斯かる自治制は、現實に是等の人民に、如何なる様相を呈したか？ 千九百二十年四月二十七日赤軍はアゼルバイジャン、同年十一月ウクライナ、十二月三日アルメニア、而して千九百二十一年二月二十五日、新共和國ゲオルキヤを侵略した、所がモスコウが前年の條約に依り其の不可侵を斷乎と承認して置たいのである。

インゲルマン地方に於いては芬蘭の人民は制度を以つて絶滅されてゐる。千九百二十九年—千九百三十一年に一萬八千の芬蘭人、千九百三十五年春に九千人のそれが、シベリヤに追放された、而して二箇月前ソヴィエト政府は、二萬八千人の芬蘭人を其の本國から放逐せんと決意した。



波蘭とソヴィエト露西亞との境界領からは同年春一萬八千の獨逸人種系の農民が『立退き』を命ぜられた。八十人乃至九十人宛一臺の家畜運搬車に詰込まれて、シベリアに護送された。

カ、ハ、リ、アからは前年四千人が中央亞細亞へ、三千人がウラルへ追放された、而して此地に於いて非人間的生活條件及び勞働條件の結果五十パーセント以上が滅亡の止むなきに到つた。

一千九百二十七年共產黨宣傳機關は、無政府主義者サツコ及びバンゼツチの死刑公告を以つて世界の半分を騷擾させた。幾百萬となき記事及び新聞に依り資本主義諸國に於けるコミニストムは死刑撤回を騒ぎ立てた。而してソヴィエト聯邦に於いては如何？ 單に刑法第五十八條のみにても、死刑に相當する十四の相異なる犯罪事實が規定されてゐる！ 千九百三十五年四月七日附公告の法律に依り、死刑は更に少年に對してすら施行されてゐる！

或る學校の飢に泣く少年達は、往昔の良好狀態を何過となしに話し合ふのだつた。斯かる事は第五十八條の犯罪事實を構成するに十分である。十人の少年は其の友達の傍でゲ・ベ・ウに依り射殺された。ソヴィエト檢事總長ウイシンスキーは一新聞に『満足にして幸福なる心情を以て』の表題の中に此の如き『少年殺害』法が效力を發揮せし一年目の日を回想してゐる。

斯かる事總ては、専ら十中八九迄ソヴィエート發表に根源せる、確證され立證されし資料を基とする事實である。余が昨年ニールンベルク會議の席上で、千九百三十五年七月二十五日から八月二十一日に掛けて開催されたる、第七回コミンタン會議の甚だ期待に充當せる諸成果を警告的口調を以て展開せし折、世界は其れに對して只沈黙と無理解を陳列したにすぎなかつた。俗物は我々の豫言を以つて誇張なりと思惟し、而して此の如き豫言を輕蔑し得ると信じた。それ故失禮乍ら、此のコミンタン會議に於いて取扱はれし、動議及び起草されし計畫案を簡單に繰返し、而して其の間に生じ來れる各國に於ける諸結果を、斯かる動議及び計畫案に對比したいと思ふ。

世界革命化に對するソヴィエート獨裁の代表者デミトロフは、聲高らかに公言して曰く——「我々の幾百萬の政治的軍隊はスターリンを最高指導者となし、一切の障害を克服しつつ、大膽に一切の妨害物を突破し、資本主義の堡壘を破壊し、而して全世界に於ける社會主義の勝利を獲得し得るし、また爲し得ねばならぬ！」

彼は更に次の如く云ふ——

『プロレタリアートは世界の現實的支配者であり、明日の支配者である。又彼は自己の歴史的權利に立入り、而して各國に於て、全世界に於いて、支配權の手綱を掌握せねばならぬ……』  
『歴史の車輪を後退させる努力は無益である。否、此の車輪は廻轉を續けて居り、社會主義的ソヴィエート共和國世界聯邦の方向に於いて、全世界に於ける社會主義の斷乎たる勝利に至る迄は更に廻轉を續けるであらう。』

ブルガリアのテロリストが世界革命化の爲めに提出したる綱領は斯く叫ぶ。實行方法に關しては赤裸々な諸事實が之を物語るであらう。

此の會議以來世界各國に幾多の共產主義革命が生起し來つた、斯かる革命には、千九百三十五年八月に於ける幾多の死者を出したるブレスト及びチューロンの革命、千九百三十六年四月十日に於けるレムベルグに於ける革命(死者のみ十名)、千九百三十六年五月十日に於けるサロニキの革命(死者百餘名)がある。長年月に亘り準備された武裝せる三暴動は數週間の間全國を震動さした——千九百三十五年十一月に於けるベルナムブコの暴動、千九百三十六年一月に於けるベノス・アイレスの暴動、千九百三十六年三月に於けるスペインの暴動これである。

計畫的な六暴動は豫め鎮壓され得た、斯かる暴動中には左の如きものがある——千九百三十五年十二月のウルグアイに於ける暴動、千九百三十六年二月二日のバラグアイに於ける及び同月の智利に於ける暴動。六十二の大放火が實行された、例へば支那に於ける樂州の放火事件、此の事件の結果千名の犠牲がある。五十四の武裝襲撃が敢行され、七十八の爆裂物倉庫が発見された。總計三千四十一名の人命が、此の如きボルシエヴィキ的犯罪の犠牲となつて斃れたのであつた。

我々は若干の實例を擧み出さう。千九百三十五年六月三十日に於ける共產黨國際會議の席上に於いて、ギリシヤ代表として同志ドゾルドゾスが登壇し、將來の一行動計畫案を展開した。モスコーに於ける彼の登壇より約一周年、千九百三十六年八月五日、ギリシヤは總罷業に依り震撼せられ、それは直接に武裝暴動に激化した。ギリシヤはメタクサス將軍の精力的な干渉を待ち、初めてボルシエヴィキ的混亂への突入の前に救助され得、斯くして同志デミトロフ及びドゾルドゾスの計畫は潰滅され得た。

デミトロフは植民地革命に關して次の如く語つた。

「今日、植民地及び半植民地の人民は己が解放に就て決して希望を失つてはゐない。却つて彼等は愈々帝國主義的壓制者に抗して果敢な戦ひを挑んでゐる」と。

半歳経つか経たない内にシリアに危険な暴動が勃發し、甚だしい流血の慘を見た。フランスと最近友誼を厚うしたにも拘らず、モスコーは何の遠慮もなくこの協約國の委任統治領に豫ての計畫を遂行したのである。二三月の後バレスチナに騷擾が起り、その間、英國警察は多數の共產黨宣傳ビラを押收し又共產黨職員の秘密會合を衝いて之を檢舉した。

ブラジル代表者マルケは、一九三五年七月の第七回世界會議に際して説明した――

「我が國土は政府の顛覆、國民革命政府の制定に向つて猛然たる決戦を試みんとしてゐる。」

三ヶ月後ナタール及びレシフェに於て共產黨の暴動が起り、百五十人の死者、四百人の負傷者を出した。「アリアンツ」紙の代理人ルイス・カルロス・プレステス、猶太人エヴェルト及びモンテヴィデオに於けるソヴィエトロシアの「派遣員」、先の皮革商なる猶太人ミンキンはその假面を剥がれた。

次にフランスに就てみるに、デミトロフは「フランス共產黨は國際共產黨の各支部に對して、

統一戦線戦術遂行の好例を示してゐる」と言つてゐる。フランス共産黨の指導者トレースは更に加へて、

「革命は自然に起るのでない。人が統制しなければならぬ。我々はロシアボルシェヴィキの道を行く決心をしてゐる。我々はソヴェト權力の爲に盡すのである」と。

フランスの共産黨は好成績を示し、それにはデミトロフが與つて力がある。黨員は、一九三六年の一月に八萬七千のものが三月には十萬となり、七月には十八萬七千、八月には二十二萬五千を越え、同時に、軍隊化された青年同盟の数も幾倍か増加してゐる。投票数は七十九萬から百五十萬に登り、その中、大巴里に於けるものは唯の三分の一である。議員数は十人から七十人となり、「ユマニテ」の發行部数は一九三三年の十五萬四千から、一九三六年には七十五萬にさへ登つたことがある。同年の議員選舉の爲だけに、共産黨宣傳局から二千七百萬の印刷がバラ撒かれた。勞働組合も共産黨人民戦線に編制されてからは大に増加し、この年の三月に八十萬の組合員であつたものが、八月には四百三十萬となつたのである。

フランスも亦スペイン人民戦線の道を歩んでゐる。デミトロフの「トロヤの木馬」と巴里城壁



の中に立つてゐる。

併し何にもまして良き實物教訓はスペインの流血の慘事であり、これほどあの第七回大會の決議の眞剣さを痛感せしむるものはない。これは當時發せられた指令の忠實な遂行であり、事實「人民戰線」スローガンの實現であつて、フランスに於てその第一段に達し、スペインに於て最高潮に達したのである。このスローガンはデミトロフが、一人民戰線政府の許に「該政府の實行權力を大衆の革命準備の爲に充分利用し」、「社會主義的革命的爲に武裝せんとて」發したものである。何となれば「救ひを齎すものは唯ソヴィエト權力のみである！」から。

スペインの代表者ヴェンテラが與へた精確な綱領は次の如きものであつた。「スペインのプロレタリアート及び我が黨は、再びそして徹底的に、ファッシズムと資本家及び地主の權力とを倒し、勞働者、農民革命の勝利を齎さんとする。……レーニン及びスターリンの旗の許に我等は昂然と勝利の歩を運ぶ。」

既に、七月十三日に行はれた王黨の主領カルヴォ・ステロの殺害以前に、二百六十九人の人命が赤色死魔の犠牲とされてゐた。フランスのジャーナリスト、アルミニョンは次の如く報じて

ゐる――

ムルシアに於て豫てファッシストだと稱せられた二人の若者が大勢の手に捕へられ、路上でさんざん虐まれた擧句、一人の婦人が肉屋の斧をもつて彼等の頭を刎ねた。これは三月十六日に行はれたことである。この兩人は、ベドロ・クティラスとアントニオ・マルティネツとの二人であつた。

スペインのマルクシスト達が外國の指導者の命令によつて行つた非道な慘虐行爲に就ては、世界の諸新聞も遂に傳へずにはゐられなかつた。實際に行はれたテロルの數は到底知り難い。八月十九日には相當確かな筋から次のやうな事が公表された。――マドリッド市及びその近郊に於て赤の手に仆された者は六千人に登り、その中千四百人だけが有名なカサ・デル・カムボ公園で行はれた。最大の牢獄カルセル・マデロには、この當時三千人の囚徒があり、サン・アントニオには千百四十六人、マドリッドに於ける總數は六千人に及ぶと。けれども私の有する一目撃者の報告によれば、これらの數は全然違つてゐる。この目撃者はその家からカサ・デル・カムボを眺め得たのであるが、彼は八月三十日までに約六千人が銃殺されたのを目撃したと云つて

ゐる。彼の言ふところによれば、都の他の場所、街路や家屋内で、更に二萬人の人間が殺されたのである。(獨人ハインリツヒの報告)

また自身牢獄からボルシエヴィキの殺戮を目撃しなければならなかつた或る男は、日々數百人が殺されたことを告げ、若い一外國人は八月二十一日の夜、二百人ばかりの刑務所員がカルセル・モデロで殺害され、翌日ファツシスト黨派の二百五十人が營庭で銃殺されたのを目撃した。彼はまた八月十五日に、アルメニアから二百五十人の囚人がマドリッドに到着し、警察隊から赤色民兵隊の手に渡されるのを見た。彼等は二百四十人の者を壁の前に立たし、直に停車場に於て銃殺したのである。そして只十人だけを牢獄に伴ひ、彼等の「委任」を遂行した。やゝ後に、ファツシスト指導者、ルイツ・デ・アルダ、フェルナンド・ブリモ・デ・リヴェラ、クエスタ及びヴァルデス等が殺害された。

全ドイツ國民は、赤色無賴漢の犠牲となり、誠に非業なる死を遂げた七人の同胞を深く悼むのである。ハムブルグの臨時會議への途すがら、我が同胞であり黨員であるヂエツエ、ダート、ホフマイスター、トライツの四人は、ボルシエヴィキの一團に殺害された。その中の二人は長

い「訊問」の後に一工場の裏に連れられ、他の二人は少し離れた壁の所に立たれて銃殺された。後になつてはつきり判つたのであるが、罪人どもはその惨虐を丸太を以てやつたのである！ ホフマイスターとトライツの兩人は全く相貌が變り、彼等であることを容易に識別出来なかつた。その他多くの我が同胞は、或は傷けられ或は財を奪はれてゐる。黨員なるハンス・ハーネルは、「赤十字」の仕事に従事しようとするところを殺され、彼の家は掠奪され妻は裸一貫で取殘されたのである。

マドリツドばかりでなく、赤色分子の慘虐行爲は全國に瀰漫してゐる。ロラ・デル・リオに於ては百八十七人が、コンスタンティアに於ては二百五十人が殺された（リサボン、「ディアリオ・デ・ノテイシアス」）。

カルタゲナに於ては六百の士官と兵員とが頭に石をつけて海に投ぜられた（「ゲルマニア」）。バエナの修道院ではコンムニストが百八十人の者を手斧と剃刀とで死刑に處したが、その中には、サンタ・マリア・マヨールの神父や、女や子供も混つてゐた。女達は體を切割かれたのであつた（「セクロ」）。マラガの二人の農夫は四百人以上の者が殺戮された様を報じてゐるが、彼等

は足に重りを着けて井戸に投ぜられ、或はまた馬の尻に縛られて街路を曳摺られた「セクロ」。イタリアの領事代理ソラヴェラニの言ふところに依れば、十六歳の娘が第一に囚人を射たとのことである（「チユリツヒ」「デイ・フロント」）。ロサール・デ・ラ・フロンテラではコムニユニスト達は四十人の者を教會に閉じこめて焼き殺した（「ジュルナル・ドウ・ジュネーブ」）。ルンダに於ては四百の住民が殺され、その二百人ばかりは谿間に突き落された（「タイムス」）。サン・セバステイアンでは八月十四日に五十一人の人間が射殺された（「イヴニング・スタンダード」）。アルメンドラゴで、フランク將軍の軍隊は、牢獄の壁に逆礮になつて囚人の屍を發見した。八十人が生きながら焼かれた（「セリコ」）。カルタケナでは五十人の民衛隊が頭と頭をつながれ、鐵の門で重りをつけて、赤色囚人船「シル」號から海に突き落された（「デイリー・メール」）。「ジュルナル」の特派員、エミール・コンドロイエがエル・アラハールから報告したところによれば、赤は三十人の男女や子供を牢を閉ぢこめて、窓から石油を注ぎ、隣寸に火をつけて投げ込んだといふ（「デイリー・メール」）。

祭司の段戮、尼僧の凌辱などに關する一々の事は到底擧げ得ない。いま二三の例を言へば、

タラゴナの大司教とレリダの司教とは殺害された（ジュールナル・ドウ・ジュネーブ）。米人ヘンリー・ハリスによれば、彼は自ら牢獄にあつて、バルセロナの百五十人の僧徒の殺害を目撃したといふ（「マタン」）。ビエドラルヴェツに於てはカトリック労働者の指導者ドン・デイマス・マダリアガが殺された（ジュールナル・ドウ・ジュネーブ）。タラゴナでは八人の牧師が射殺され、一人の修道僧は長靴で踏みにぢられ、結局射殺された（獨人ハイン・ハウスマンの報告）。祭司達の首を刎ね、町中を、その首を曳摺り廻したといふやうな事は數多く報ぜられてゐる。ヴァルセロナでは多くの尼僧が射殺され、その體は焼かれた。アドレロの牧師、ラス・カサス及びトレスは、最も慘忍な方法で殺された（「ゲルマニア」）。かゝる報告はいくらでも續けられるであらう。子供達も屢々その銃殺に加へられてゐた。ラ・ハバナからラファエル・オリオルが報じたところでは、殺された者の中に十五歳以下の子供が澤山ゐたのを、彼はバルセロナで目撃したのである（デイアリオ・デ・ラ・マリナ）。

取返しのかぬ貴重な藝術品が破壊され、國の精神的精華は盡殺された。ノーベル賞の受賞者ボナ・ヴェンテ、著名な戯曲家アルヴァレス・クインテロ、また藝術家ゾロアガも死に處せら



れた〔デイリー・メール〕。ワルター・クック教授の報告によれば、バルセロナだけで、サンタ・アンナ會堂を初めとして、唯一つだけ残して全教會は焼かれたといふ。十五世紀から傳はるヴェルメジョの有名な祭壇の畫像も破棄され、また十五世紀からのマアルのサンタ・マリア教會も破壊された。九世紀以來のブレラのサン・ベドロ寺もたゞ壁を残すのみである。バルセロナの著名な修道院、大司教の官邸も全く破壊されて了つたのである。

これこそボルシエヴィズムの無神論の真相である。それは敢て各國に自己の準備を提供して教會を苦しめ破壊する。バルセロナに於て柩から尼僧の屍を引摺り出した如きは、ボルシエヴィズムが如何に凡ての聖徒を凌辱せるかの一象徴である。スペインに於ける主要な煽動者の一人であり、ボルシエヴィキイ・トムスキイの會での秘書たりしアンドレアス・ニンが、「我らはあらゆる神殿を壊滅することによつて教會問題を解決した」と説明せるによつても、その無神性の如何に徹底せるものであるかを確認せざるを得ぬ。實に之こそボルシエヴィズムの真相を示すものである！

スペインに於ても、一九一七年のロシア、及びその他の各國に於けると同じく、ボルシエヴ

イズム變革を招來し指導するものは、祖國なき猶太の電線製造者である。その各國の同胞としての感情は、よし彼等が猶太人でない場合でも、彼等には全く失はれてゐるのである。

スペインに起つたあらゆる事件に對し、イデオロギイ的にも實踐的にも、罪を負ふ者は誰であるか！ これら凡ての事件は、モスコで確定された決議の實現であり、それ以外の何ものでもない。その遂行の爲にスペインに派遣された者は、ボルシェヴィキ猶太人、「ハンガリの殺人者」ベラ・タン、スペインでエンリケ・フイツシャー・ノイマンと呼ばれたノイマン、モスコの「ブラウダ」通信員と假裝したコルツォフ・ギンスブルグ、そして國際聯盟の赤色外交官、猶太人ローゼンベルグ。彼等はあらゆる赤色テロルの指導者であり、似而非の旅券、奇妙にも大概フランス發行のものを用ひてスペインに入り、その血腥い仕事に没頭してゐる。

モスコの責任を最も明瞭に示すものは、ボルシェヴィズムに使喚されたスペイン内亂を國際紛争にまで擴大しようとする大規模な計畫である。ソヴィエトロシア勞働組合の議長、猶太人シユヴェルニツクは干涉の意圖あることを公言し、「中央委員會はソヴィエト聯盟の全勞働者、民衆に呼びかけ武器を手にして民主主義的共和國を防衛するスペイン戰士の爲に物資の後

援をなさむ」と述べてゐる（「イスヴエステイヤ」）

「イスヴエステイヤ」の報ずるところによれば、ソヴィエトロシア労働組合聯合評議會書記長はスペインのボルシェヴィキに千二百萬ルーブル、即ち三千六百萬フランを送つた。スペイン即ち統領アザニヤはソヴィエト猶太人コルツオウ・ギンスブルグに謝意を表し、「我等がソヴィエト民衆より與へられた同情と甚大なる救援にいたく感激せるを傳へられん事を。余は常にソヴィエト民主主義とスペイン民主主義との堅き連帶を確信するものである」と（「ポエルゼン・ツァイトウンク」）

モスコーはコミンテルンの支部を通じて各國政府を動かし、スペイン赤色分子に有利な干渉をなさしめんと努めてゐる。フランスの右翼新聞は、フランスの飛行機及び軍需品がマドリッドに供給されたことを續けて報じてゐる。

モスコー赤色救援會はスペインのボルシェヴィキの爲に各國で公然に義捐金を集めてゐる。フランス人民戦線―労働組合の書記長ジュオー、特使アンドレ・マルロー等はフランスとスペインとのマルキシストの連絡をしてゐる。首相ゲラールはコルツオウ・ギンスブルグに對

し「争亂に當つて先んじてスペイン政府を力強く援助されたフランスの諸團體及び個人に」謝意を表し、特にジュオー、マルロー、猶太人T・Bブロックの名を挙げ、最後に「兄弟なるソヴィエト民衆」に重ねて感謝してゐる（「ブラウダ」）。スペインの人民戦線政府がフランスのコムニニストの支持を謝するに、一ソヴィエト猶太人に對してするとは何事であるか？ これは明かに、フランス共産黨の指導者もスペインのそれと同じくモスコーに在ることを語つてゐるのだ。

スペインに於ける未曾有の慘虐行爲がコミンテルンの特使によつて誘發され遂行されてゐることは明かであり、ソヴィエトロシアがスペインのボルシェヴィストを、經濟的に、政治的に、實踐的に援助してゐることも明瞭である。モスコーに於ける最近のコミンテルン評議會が、觀念的にも實踐的にも、スペインにボルシェヴィズムを施行せんと企て、モスコーが直にこの計畫を實現せんと努めてゐることは言ふまでもない。世界革命を志すモスコーの意志が、縮少されざるのみか却つて益々強化されてゐることは、スペインの例に見ても明かである。今にして眼を開かざる者は、後に來る恐るべき結果を歎く權利はない。

これが理論と實際とに示されたシボルエヴィズムである。この地獄的な世界ベストは芟除されねばならぬ。而してこれが絶滅の爲に力を致すことは、凡そ責任感を有する各人の義務である。我々ドイツ人が世界各国民に呼びかけるのは決して單なる言辭ではない。苟も、戰慄すべき測り知られざる災禍の渦卷に捲きこまれざらんと欲する者は、この危険に對して飽くまで一致團結しなければならぬ。

ドイツはこの世界争闘の合圖を發した。我々國家社會主義者はこの對立を負ふて十四年の久しき、ボルシエヴィズムに抗し、その隻語片影をも假借しなかつた。我々のこの行動は、典型的な市民政府、ボルシエヴィズムの本質や成果に何の關はりもなき政府の許で爲された、從つて、我等が徹底的な打撃を與へんとする場合は、常に互に腕を組んだ。にも拘らずボルシエヴィズムを打倒し得たことは、今日殆んど奇蹟とも思はれる。恐らくこれは我らの上に働く世界秩序の運行の中の一奇蹟でもあらう。この世界秩序は、何千年の民族、文化の、國際的―ボルシエヴィズム的猶太主義の絶滅意志によつて壊滅さるゝを許さざるものである。

我等はボルシエヴィズムを克服し得た。これ、我等が彼に對し、より良き理想とより強き信

仰とを以て防備したからである、我等が猶太主義に抗し、且それと結ばれたる下層種族的下等人間性に抗する國民として奮起したからである、我等がボルシエヴィズム世界觀に對立して、良き高貴な理想主義的な世界觀を主張したが爲である。我等がこの戦ひに於て民族自身より出發し、ブルジョア黨派の如く所有と教養とより出發しなかつたが故である、我等が自己の理念の力を新興國民の強き信仰と熱烈なる政治とに結んだが爲である、而して我等が一指導者を有したが爲である、彼は我等に道を示し、我が國民生活の最も暗澹たる時代から、新しき未來の明朗純潔なる光明に導くのである。

これは既に今日全世界の認容する、我が指導者の歴史的功績である。即ち彼はボルシエヴィズムの襲撃に抗して東ドイツ國境に城塞を築き、かくして破壊と無政府の怖るべき力に備ふるヨーロッパの精神的先達となつたのである。彼こそ恐怖を知らずまた汚點なき眞の騎士であり、文化、人類、文明の旗幟をその強き手に捧げ、昂然として世界革命の脅威と襲撃とに抗して進みゆく。彼は我等に教へた、恐怖を蔑しみ名譽を愛すべきことを——斯くして我等として再び我が民族性の古き理想と道義とを回復せしめたのである。



これこそ全世界に對する合圖である。こゝに、一見不可能と考へられるやうな實例が證明されたのである。即ち人はボルシェヴィズムを克服し得る——若し彼がしか爲さんと欲するならば、正しき手段を用ひ、あらゆる力に勇氣とを捧げて破壊に抗せんと決意するならば、人はボルシェヴィズムを克服し得るのである。ドイツ民族がそれによつて獲たところは幸福である。斯くて、運命に幸さるゝ全民族の男子は立つてこの戦ひに参加しなければならぬ。彼等の眼より鱗の落つるとき、彼等は猶太主義の老獺なる害惡を熟視し、且その聰明でも危険でもないことを認識し、洞見して、確信するであらう。

このドイツの範に倣つて世界は自ら實證しなければならぬ。勿論國家社會主義は輸出品でなくその方法は他民族に薦めらるべきでなく、いはんや強制さるべきではない。けれども、それは大に教訓たり得る、この例に倣はしめ、彼等をしてその最も甚しき危機より脱出せしめるであらう。彼等が速にかゝる行動を起さん事を。遅れてはならぬ、猶豫は常に危険である。

併し我等はドイツ國家社會主義者として、この課題を既に果し終へたことを誇る、我等はドイツの爲のみならず、ヨーロッパの爲にもそれを果した。アドルフ・ヒットラーはこのドイツ

の戦ひの指導者として、また最良のヨーロッパ人となつてゐる。彼はこの苦惱の地に、それを脅かす危機を克服すべき道を示し、ヨーロッパ民族をして就て學び従つて踏むべき機會を與へた。何となれば、赤色の文化の敵は各國に立ち、到る處、世界は危險にさらされてゐる。最早や猶豫すべき時ではない。我等は武裝に身を固め、時來たらば決然としてそれに對抗しなければならぬ。赤魔は東方を脅かす、併し指導者は監視してゐる。ドイツはヨーロッパ文化の前衛として、あらゆる手段を以てその土地の境界よりこの危險を防ぐべき決意と準備とを有するのである。

我等はドイツ國內に於けるボルシェヴィズムのベストを焼拂つた。最早や我等の内にはその殘滓もない。又それは、如何にするも、如何なる時にも、再び頭を擧げるべき機會を見出し得ないであらう。このくすぶる火の最後の焰も踏みにぢつた。ドイツに於けるこのベストの曾ての指導者、先達は、或は國境を越え、或は堅く監禁されてゐる。しかし彼等の曾ての同志及び隨従者は大部分、疾くにドイツ民族の新たな團結に加つてゐる。モスコが重ねて我が國にボルシェヴィズムの再建を試みることあらば、我等は敢然としてこの企を打ち、モスコをして

肝に銘ぜしめるであらう。その場合、我等をして武器を採らしむるものは他の何ものでもなく、實に我等自身、それを欲しそれを要求するのである。我がドイツ國民は新しき内部の平和を樂しんでゐる。如何なる時、如何なる所に於ても、又如何なる者によつても、之を擾さるゝを欲しないのである。黨は反ボルシェヴィズム鬭爭の荷擔者として、國家の安全を監視し、民族及び國民を内に於て守護する。軍隊は我が國民的、民族的抵抗、防禦の意志の具現として、國境に於てドイツを守る。これぞ我等が安全の堡壘であり、民族、國家の巨柱である。國民はその強力な守護の蔭に隠されてゐる。

その間にもモスコの赤色無政府は狂熱的な熱心を以て準備してゐる。彼等の準備は攻撃的性質のものである——あらゆる赤色支配は世界革命への意志を藏するが故である。赤色飛行機、赤色銃砲の凡ては、歐洲に混沌を齎さん目的もて建造されてゐる。

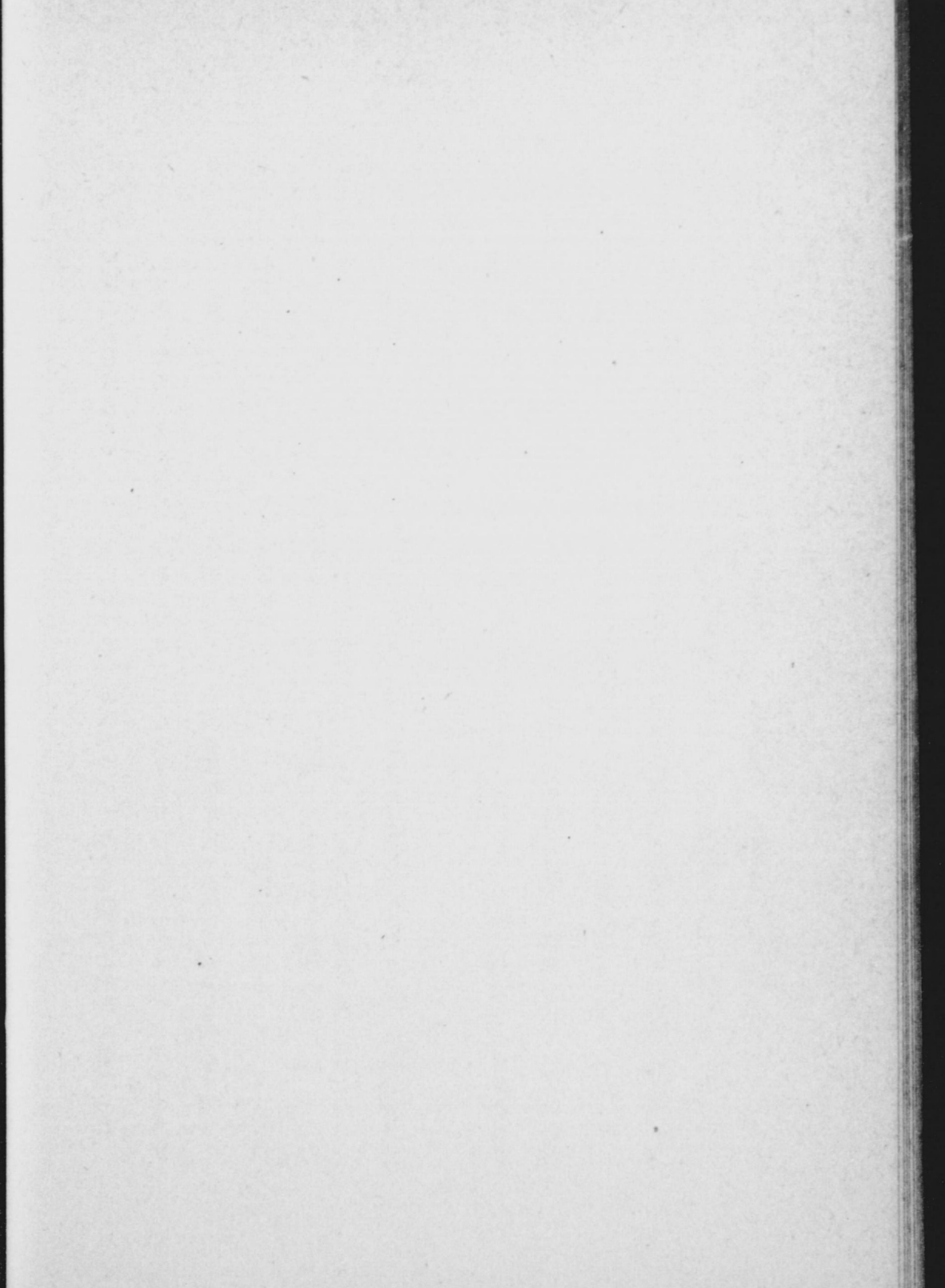
他の民族がこの危險に抗して爲す事は、我々の影響、感化から離れてゐる。我等は理性的のもの、合目的のものを準備するやう彼等を規定することは出來ぬ。併しながら我等の爲す事は、民族同盟とか、或は諸外國に見なれるソヴィエトイデーの爲の多かれ少なかれ短見な同情を、

空しく不注意に考慮することによつて決定されてゐるのでもなければ、また、ヨーロッパを瞭然たらざる誘惑の網にかける曖昧な實質なき集合を企劃することによつて決定されてゐるのでもない。我等の爲す事は、ドイツ及びヨーロッパに對する我等の義務、我等の責任ある良心によつて規定されるのである。赤色クレムリンは兵役義務を伸張することによつてボルシェヴィズム軍隊の戰鬥力を本質的に擴大した。もとより指導者はそれに應ずるを辭せない。二年の義務年限を制定することにより、彼はドイツの安全を保證した。これは赤色無政府から我等を守る爲には是非必要なものである。

他の國家並びに政府がモスコより及ぶ脅威を軽く鼻であしらはんとするも、我等はそれに誤られてはならぬ。モスコ猶太人の言ふところは我等にとつて些細である。併しその爲すところは我等にとつて根本的重大事である。我等はそれを看破した、そしてそれに對しては、斷乎として、嚴格に徹底的に、飽くまで打撃討掃を試みるのである。

併し今やドイツ民族は再び安靜に、平和に自己の仕事に就いてゐられる。國家は安全に守られてゐる。東方より寄する赤き津波はナチスの防壁に彈き返されるであらう。而して全國民の

上には、民族の忠實なるエツクハルトとしての指導者が立つてゐる、艱苦と危難に鍛へられ、ドイツをして再び誇らかなる富める國になさんとする熱狂的意志によつてのみ指導者が立つてゐる。黨は國內に於て我等が安寧を守り、軍隊は國境に於て我等の安全を守る。而して兩者は共に欣然として唯一人の命令に服従する、この人こそ己が民族の前哨として、又より良きより、正しきより、氣高き、より、幸福なるヨーロッパの前衛としてこゝに我等の前に立つてゐる。

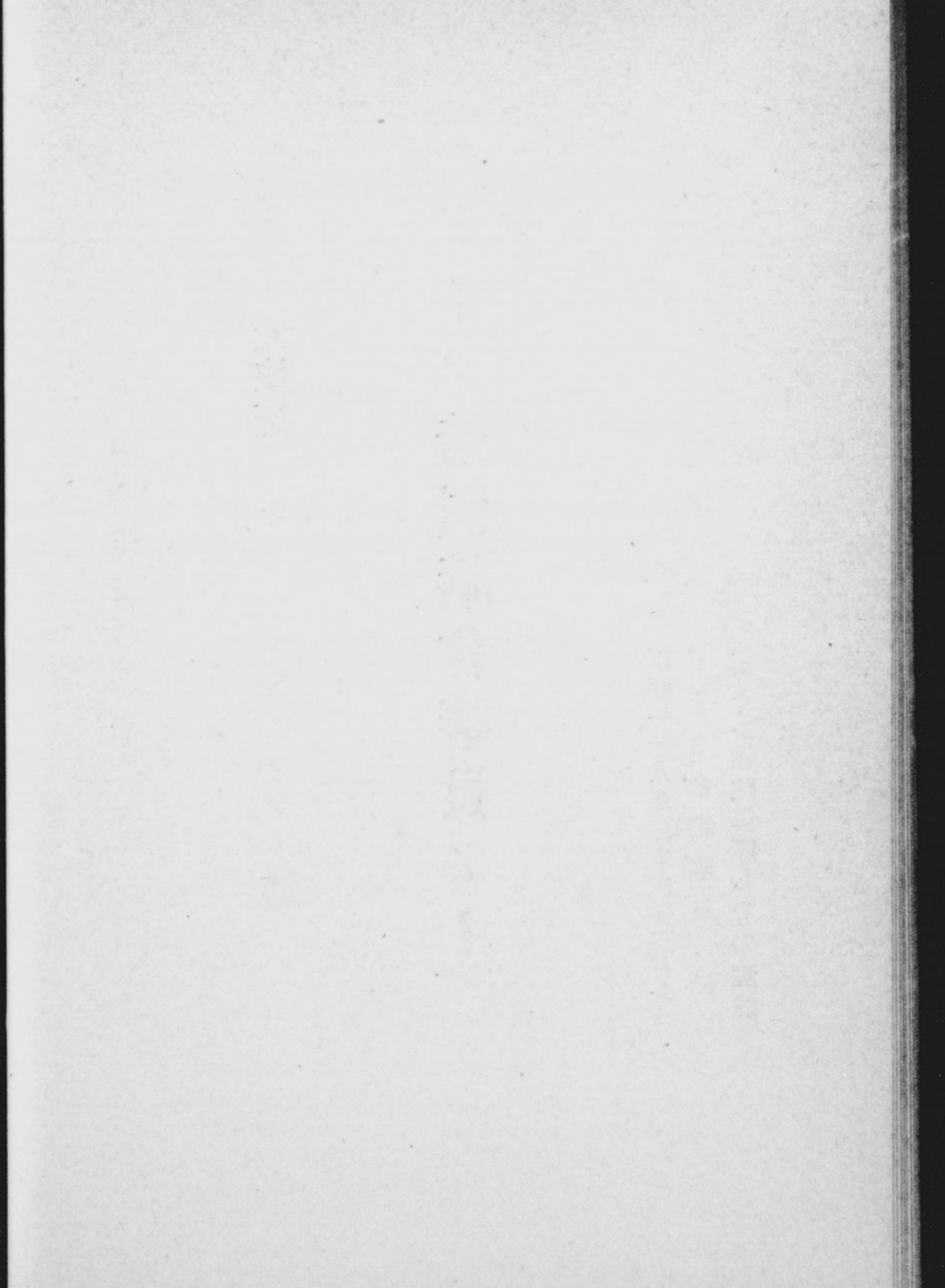




ドイツ大總統 アドルフ・ヒットラー述

# ドイツ帝國議會議員よ！

西曆一千九百三十六年三月七日  
ドイツ帝國議會に於て  
(ライン進駐に際しての演説)



## ドイツ帝國議會議員よ！

ドイツ帝國會議議長・黨員ゲーリング氏が、余の委嘱により、この今日の議會を召集せるは、たゞに議員諸君からのみならず、本能的に重大、否、決定的にさえ考へられる全ドイツ民族から發せられる質問に對して、諸君に、政府の説明を聴取せしめる機會を與へんがためである。

一九一八年の、かの無氣味なる十一月議會において、大戰の血なまぐさき悲劇の上に幕が降された時、全世界百萬の人類は、こゝに安堵の吐息をもらしたのであつた。と同時に、一つの春の豫感は、民衆の上に齎らされ、希望は蘇り、これによつて人類史上の一つの最も悲劇的な紛糾は、その終結をつげたるのみならず、これによつて、缺陷多く従つて禍に満ちたる一つの時代は、その歴史的轉廻を遂げたりと感ぜしめたのであつた。

あらゆる戦ひの喊聲を通し、狂暴なる威嚇を通し、告訴と呪咀と有罪の宣告とを通して、遂にかのアメリカ大統領の説は人間性の耳朶を打つたのであつたが、そこには、一つの新しき時代と、一つのより、善き世界が説かれてゐたのであつた。その總括して十四ヶ條は、各國民に新

しき國民の秩序、從つて又人類の秩序に對して、一つの輪廓を與ふるものであつた。たとえば、これらの諸ヶ條にして、非難さるべき點があり、或は又非難されたとするも、それは疑もなく一個の特性を持てるものにして、即ち、以前における諸狀態の機械的復興、整正及び短期日において必ずや再び以前と類似せる結果に導き得べしとなす一つの認識の上に立ちしものであつた。而して尙その中には、次の如きテーゼの魅力が存在してゐたのであつて、即ち、それが争ふべくもなき大規模に企てんとするところは、國民の共同生活に新しき法則を與へ、又、すべての國を聯合に持ち來たし、各國民を唯に外部的に結合するのみならず、先づ内部的に相互の顧慮と相互の理解によつて相接近せしめんとするが如き制度を生ぜしめ・發展せしむることの可能なる一つの新しき精神を實現せんとする企圖であつた。いかなる國民と雖も、わがドイツ人程、この空想の魔力に陥りしものはなかつた。そこには、戦ひの絶ゆべくも見えざる世界と、その戦ひによつて陥るべき不幸とに挑戦する名譽が存在した。そこには、然しながら、敗戦者にとつては、その國民が豫知も、希望もせざりし戦ひに對する責任の呪咀を負はされることゝなつてゐた。ドイツ國民は、このテーゼを、それ自身及び世界に絶望せるものゝ力を以つて信

じた。かくして、それは最も悲しむべき時代の中に、その道を進んだ。われらはすべて此の幾年を、この空想的なる信念の犠牲となり、従つて又、そのおそるべき結末の對象と成り了つた。それは、これを實現するに役立ちしに非ず、わが國民を、時と共に益々甚だしく陷れたるおそるべき失望を表現するに過ぎなかつた。余は、かゝる絶望に就きて述べるを欲せざるものであり、この年月ドイツ國民とわれらを包みし苦惱と悲痛を語らんとするものでもない。われらは一つの戦ひに引き込まれたるものであり、その勃發には、われらが何の罪も責任も無きこと他の國民と同様であつた。然るに、われらは、最も大なる犠牲者となり、而もかのより、善き時代への信念の實現に對しては最も輕きものとして取扱はるゝに至つたのである。

ひとりわれら敗戦者のみが、新しき時代と新しき人類發展のかの空想に満ちた世の姿の變化に當つて、苦惱に充ちたる現實を體驗せしめらるべきものに非ず、戦勝者も亦これを味ふべきものでなければならぬ。

當時の政治家がヴェルサイユに集まり、一つの新しき世界秩序を決定せんとしてより十七年は過ぎた。時は既に、その發展の一般的傾向が何處に達し得るかを批判するに充分である。わ

れらは、こゝに、著作乃至新聞雜誌類より現代に對する批判の聲を蒐集し・並列して、一つの最後の確證を得る必要はない。否、この發展の正しき評價の問題に對して、明白なる解答を得んとするならば、現代世界を一瞥し、その中に存する眞實の體驗、その期待と失望、その危機、その鬭争に眼を向けるのみにて足るのである。

人類對立の漸次的發生を激情を以つて感ずる代りに、われらは心を悩ます不安を體驗するのであるが、この不安は、激次に減少せずして、寧ろ遺憾ながら益々増大するかに見えるのである。邪推と憎惡、羨望と貪慾、不信と誹毀、これらは各國民を支配する明白なる感情である。かの平和、嘗つては戦ひの墓窖を塗り込めたる上にその要石として据えられたる筈の平和は、今や新しき戦ひの種とならんとする。爾來われらの見るところ、そこには内部的及び外部的なる不安の燃え上るを見る。爾來、如何なる年にあつても、地上の何處かに、平和の鐘の代りに、武器のざわめきを聽かない年はなかつた。誰れとて驚かざるなきは、かゝる悲劇的絶望によつて、一つの世界秩序の正當さに對する信念が、國民の内心より震撼せしめられたることにして、この世界秩序こそ、かの悲劇的方法によつて漸く約束されたかに見えたものではなかつたか？



新しき觀念は、人々を捕えんとし、人々に打ち勝ち、直ちに新しき征服への戰士として呼びかけんとする。世界史が一度は確認するであらうことは——大戰終結以來、地球が精神的な・政治的な・乃至は經濟的な變革に悩まされてゐるのは、一般的に言へば、歴史が只千年のうちに歩みし如く、各國民及び各大陸にその特有なる意味と性格とを與へるが如くならんとしつゝあるのであるといふことである。人々が考へるかも知れないことは——今日以後、各國民間の緊迫は、以前にも増して強大となるであらうといふことである。ボルシェヴィズムの革命は、地球上に大なる一線を劃し、只に外部的に一つの極印を押したにとどまらず、内部的に共通し得べくも無き世界觀的・宗教的對立を、その圍繞せる國民及び國家に對して設立した。只に一般的なる人間的・經濟的・乃至は政治的理解において互ひに決裂し、今日までの代表者・政黨・組織及び國家をその下に埋沒せしめるのみならず、否、形而上の觀念たる世界は破壊せられ、神は退位せしめられ、宗教と教會は根絶せしめられ、彼岸は荒廢せしめられて苦惱に充てる現世のみが唯一の存在として宣言せられるのである。帝國及び王國は粉碎せられて漸次根絶せしめられ、遂には一つの思ひ出とさえもなり、それはあたかも、議會的民主政治が、新しき國家概念をその

位置に置かんがために、國民によつて廢されると同様である。而も同時に、經濟の原則は、以前にあつては、これこそ人類共同生活の基礎なりとせられたものであつたが、今や反對なる說によつて征服せられ、剥脱せしめられ、その間に失業の恐慌と従つて又國民の上にかゝる飢と貧窮は影を没するとなし、百萬の民衆をその領域に獲得した。然しながら、これらの驚歎せる人々の見たものは——戰の神が、その武裝を解きしに非ずして、反對に、實により、多くの武裝をなし、て地上に君臨することであつた。若し、以前にあつて、十萬の軍隊が、軍國主義的一王朝・一内閣・一國家の政策のために服役したとするならば、今日にあつては、百萬の軍隊が、新しき精神的觀念のために、世界革命のために、ボルシェヴィズムのために乃至は「再び戦ひの起らざるため」の偶像のために、戰備を整えざるを得ず、國民はそのために激動せしめられるのである。

議員諸君よ！ 若しも余にして、諸君及びドイツ國民に、この事實を眼前に髣髴せしめ得るならば、諸君に、われらが生存するこの時代の重大さに對する理解を喚起するのみにては足らず、むしろかの精神的及び實際的活動の不足に對する理解を喚起すべきであり、この活動こそは、嘗つて天職なりと豪語せるものであり、世界に平和なる發展と祝福せられたる安寧の新時代を

與ふべき活動である。

而も尙、余がこの時に當つて、いさゝか確言せんと欲するものは——この發展において、われらはその責務を負はざることであつて、何となれば、かのおそるべき瓦解の後をうけ、屈辱と軍備なき虚遇の時に當つて、世界にイデーを興へ或は生活の法則をさえ規定するといふことは、われらの力及ばざるところであり、われらの能力のよくし能はざるところであるからである。そはこの地上を強力に統治するものゝ行ふべきことである。然るにドイツは、十五年間は、只統治せらるゝ國に過ぎなかつたのである。余の尙このことに就き一言するは、余がドイツ國民及びおそらくは又他國人に對しても、これを遵守するは誤謬なることを理解するの眼を開かしめ得るとなすからであり、正しからざる主義は、又必然に缺陷多き虚偽の結果を齎らすに至るからである。われら自らは、この發展の喪主として特に困苦に逢着せしめられ、既に強調せるが如く、一部はわが國の甚だしき衰亡もこれに關聯せるものである。しかしながら、今日全世界が間斷なき緊迫と永續的な危機を感じるは、理性と洞察力の缺乏に歸し得るものであつて、これだにあれば、國民の問題は、その一國にあつても、亦相互間にあつても、よく見透

し得、處理し得るものである。

六六

この發展は然しながら、その出發を、かの禍なる條約より始むるものにして、この條約は、嘗つて人類の淺慮と歴史上におけるよき標本となり得る無理性的なる情熱によつて作成せられたるものであり、これは、その當事者が新しき混亂をその國民の上に持ち來たさざるやう企圖せざれば遂に人類の上に戰の止む時なかるべきを示す標本である。この條約の精神より出でたるものが、かの國家の共同を制定せる狭き結合、國際聯盟なる重荷であり、従つて又その價值の低下であつた。爾來、平和條約によつて勝利者に分割せられたる世界の間には不和が永續することとなり、即ち權利を失へるものと勝利者の間、又有權者と自由にして平等なる各國の共同としての國際聯盟の考へ得られる原則との間に不一致が生じた。この條約の精神的雰圍氣の中より、又、世界の政治的・經濟的幾多の問題に對する淺慮なる處理が生じた。國境線は、生活の明かなる必要と、現存する傳統の考慮とに従つて引かれたのではなくして、そこを支配してゐるものは、激しき復讐と返報の思想であり、従つてそれに伴つて、能ふ限り高調せられた報復に對する不安と恐怖の感情があつた。時には、政治家を結合せしめ、只交戰中の百萬の兵士の

理性と感情に訴えさえすれば、國民間に兄弟としての和解が出来るかに思はれた瞬間もあり、この和解によれば、おそらくは百年の後には國民と國家の共同生活の上に、遂に安寧の齎られる時もあらんと思はれるものであつた。然るに、事實は全くその反對となつて出現したのである。而も最も惡しき事は、この條約における憎惡の精神が、國民の一般頭腦に行き亘れることであり、又これが輿論に感染し、従つてこの精神が支配的となれることであり、而して又、この憎惡の精神あるがためにこそ、かの無理性的なるものが勝利をつけつゝあり、この無理性あるがために最も自然なる國民生活の問題、否、最も固有なる利害關係さえをも誤認せしめ、又、眩惑せしめられたる情熱の毒によつて粉碎せしめられんとしつゝあることである。

世界が今日、あまりにも多き禍に悩まされつゝあるといふことは、あまりにも明かなることであり、争ふべからざる事實である。然しながら、最も惡しきことは、この規定の精神によつて、只にこの不幸の根源を見きわめんと欲せざるのみならず、むしろこの不幸をこそ慰み物となし、公の議論においても、ある一國民或はある他國民の生活可能性が、如何に脅威を受け危険を感じつゝあるかを、多少ともに大いに氣味よきものと論じつゝあることである。



世界が、例へば、ドイツ國民の生活主張の困難なる根源に對して、何等の理解をも開かんと欲せざるは悲しむべきことである。然しながら、眞に驚愕に堪えたることは、過日若干の印刷物に見えたるところにして、いかに人々が、われらドイツ國民の生命に必然に連關せる苦惱を歡びつゝあるかの記事である。それが重要ならざる記者の物したるものならば見逃がすもよい。然しながら、惡しきことは、若しも政治家も亦、一國民の窮乏・貧困の明瞭な乃至想像上の前徴を見て、これを一般情勢及び將來の判斷のため、歡ぶべき瞬間なりと見始めるに至らんことである。

これは然しながら、既に一九一八年に始められたことである。當時、特種なる徹底的方法をもつて、かの「政治」を判定し、無理性によつてことさらに問題を創り出しながら、然もその解決に絶望し或は不斷の不安に堪えずして絶叫した。その無理性は、全く自明なことであるが、非歴史的な政治的國民分割によつては、一國民の歴史的な事實的要因を取り除き得るものではなく、只、能ふ限り生活關係に留意することゝ、生活主張を組織化することゝを困難ならしめ、或は不可能にさえもなさしめるものにか過ぎないのである。これがかの無理性であつて、そ



の中にあつては、國民は、例へばドイツの場合、人口六千五百萬の國家にあつて、科學的方法により、先づあらゆる可能なる生命の絲を外より切斷し、あらゆる經濟的連絡を奪ひ、あらゆる外國資本を沒收して取引を破壊するならば、この國民は、想像し得ざる天文學的數字の負債を負はされて、遂には、この負債の利息を拂ひ得さしめんがために外國のクレディットを與へ、このクレディットの利息を拂ひ得さしめんがために如何なる犠牲をも拂つて輸出を盛ならしめ、遂には商品の販路を塞ぎ、ためにその國民はおそるべき貧困と窮乏に驅り立てられ、今や數量の不足に泣き或はその惡意に泣くに至る。然もこれを人々は「賢明なる政治」となすのである！

わがドイツ帝國議會議員諸君！ 余がこの心理學的問題を詳細に論ずれば論ずる程、益々余の信念となるかに思はれることは、この智的なる觀察において、一つの轉換なくしては、われらの國際的國民關係の現状は、決して人類の實際的解放の結果を齎らし得ないといふことである。同時に又、われらがヨーロッパにおいて體驗しつゝある今日の運命的に重大なる緊迫は、實に聲を大にして叫ばれつつあるこの無理性に起因するものであつて、この無理性をもつて人

々は、かの國民の最も自然なる願ひを處理し得ると信じてゐるのである。

今日の政治家といふものは、國境を接する國民の内部的關係が、彼等の生活可能性にとつても最も不利益となる時にのみ、始めて氣附くかの如きものである。而も尙、その不利益が甚だしい程、彼等の政策的達見の結果なりとして益々これを誇るかに見える。余の願ふところは、ドイツ國民が、この無理性に學び、自ら斯くの如き誤謬に陥らざらんことである。余の願ふところは、ドイツ國家が、國民の中に歴史的現實を見ることを學ぶことであり、これによつて、よくかの妄想家の無用を知り得るのであるが、この思想家の存在は現實的には全くは無視し得ざるものである。こゝに愚なることは、この歴史的現實を、彼等の可能なる生活主張の必要と彼等の理性的なる生活要求とに對比せんとすることである。これによつて余の願ふところは、ドイツ國民が、國家社會主義的對外政策の國內的運動の基礎を理解せられんことであり、例へば、この對外政策においてこゝに甚だしき苦痛を嘗めつゝあるは、三千三百萬の人口を擁する一國家の海への通路を、嘗つての帝國領に通ぜんとすることであるが、これは然しながら、無理性的なることであつて、かくも大なる一國家に海への通路を、單なる訴訟によつて勝ち取ら

んとするが如きは不可能に屬することである。一つの熟慮されたる對外政策にあつては、その變化の後には必然に直ちに不平の聲の起るが如き情態を誘致するが如きは、その眞の意義でも目的でもあり得ない。特に『力』に訴えて、政治家は、かゝる自然的生活關係の壓迫を管理し得ることは、おそらく可能であらうが、然しながら、かくの如きことがより多く又より屢々又より困難な場合として起るならば、蓄積せられ・壓迫せられたる力とエネルギーの爆發に對しては、その壓力を益々増大することゝなるであらう。かくしてこれは、事の頻發するに従つて、その防衛のために益々新しき方法が用ひられるに至り、而もそのために必然に、當該國民の壓迫せられたる所謂生活力の反抗は、益々強められるに至るのである。かくして世界は、苦痛に充ちたる不安と、おそるべき爆發の豫感の中に横たへられ、而も尙、實に彼等所謂政治家の無理性のみが、このおそるべき發展の責任を負ふべきものであるといふことを認むるを欲せざるのである。人類の特にヨーロッパ國民の、かくも多くの心痛は、若しも人々が、自然的にして自明なる生活條件を尊重し、又、ヨーロッパの生活空間の政治的形體を、經濟的協同と同じく考慮したならば、よくこれを省き得たであらう。

然しながら余は、これらのことも、若しも人々が未來において、今日よりもより善くより自由なる結果に到達せんと欲するならば、絶対に必要なることなりと思はれるのである。而もこのことは特にヨーロッパに當てはまることである。ヨーロッパの國民は、今や遂にこの世界にあつて一家族である。屢々いさゝか好戰的たりしも、然も尙、互ひに血族であり、兄弟であり、姻戚關係にあり、精神的に又文化的に、將又經濟的に言ふも、互に分裂すべきものに非ず、否、遂に分割して考ふべきものではないのである。いかなる企ても、ヨーロッパの問題にあつては、この冷靜にして熟慮されたる理性の法則に従つて見、これに従つて管理するに非ざれば、遂にその反動を呼び起し、すべてが不快を感じるであらう。われらの生存する時代は、國民の國內社會的・共同的和解の時代である。政治家にして、この時代の意義を認識せず、又この方向に向つて、その國民の和解的認容の途上において、その不和を緩和し、出來得べくんばその不和を取り除かんと試みざるものは、遂には何時の日にかかの爆發を起さしめ、その後に到つて必然にこの和解の道を誘致するか、然らざれば、おそらくは、殆んど一つの渾沌たる廢墟に歸せしめるに到るであらう。賢明なる一つの國家指導は、この混亂せる無理性に手綱を掛け、然る後、

只明瞭なる時代の急迫にのみ服従し、かの社會的和解の道へと導くべく考慮することであり、これは、一つの極端を取り去ると共に、そのために他の極端に陥ることなき道である。こゝに今日、ヨーロッパのために豫言し得るのは、即ちこの過程が、かく熟慮せられたる方法によつて導かれざる所、乃至は全く失敗せるところにあつては、かの不和が起され、遂には、この時代の精神的なる傾向に服従しつゝ、自ら和解へと押し進めるであらうといふことである。然しながら、又賢明なることは、一つの國民的家族を建設し保持することであつて、これはヨーロッパには興へられてゐるものであり、この内部國家的方則は、國家外にも亦當てはまるべきものである。愚なることは、國民共同體としてのヨーロッパの如き狹隘なる一家屋のうちにあつて、種々異なる權利の秩序と權利の價值が、永久に維持されるものと空想することである。すべてかゝる試みは、不正に惱まされたる者の意志のエネルギーの負擔となり、従つて又必然に、責任者の恐怖症の負擔となるものである。余は然しながら、かゝる發展を、單に無理性的なるものと考へるのみならず、反對に、無意義にして而も甚だ危險なるものと思惟するものである。余がこれを特に危險なるものと考へるのは、尙その上に精神的なる使喚が加へられる時であつ



て、それは浅慮なる記者と國際的に有名なる煽動者より生ずるものであり、この無理性の背後には、尙、鞭打つて起たされ、混亂せしめられたる大衆が動員せられてゐるのである。余がかかる疑懼を述べる時、只余の言はんとするところは、百萬の大衆が、豫知し・感じ・或は體驗せしところのものに過ぎず、これ無くしては、おそらくはその深き根源に對する辯明は與へ難きものである。余は然しながら尙、わが帝國議會議員諸君に對して、これら余の理解するところのものを明かにすべき權利を有するものであつて、なぜなれば、それが即ち同時に、われらの獨自の政治的體驗に對する辯明となり、われらの國內の活動と同時に、外に對して取れるわれらの見解の辯明となるからである。

外の世界にあつて、屢々、一つの『ドイツの問題』が語られる時、そこには常に一つの目的があり、これによつて同時に、この問題の本質を客觀的に明瞭にせんとしてゐるのである。實にこの『問題』の大部分が述べてゐるところは、ドイツの政體に關することであつて、その中にはドイツ政府が他の政體に對して明瞭なる相違は存在せずとなし、或は又、そのおそるべき所謂『武裝』を述べ、就中、この武裝の結果として人々が見たかに妄想する蜃氣樓を述べる。これら



の問題の多くは、ドイツ國民の頑強な好戦心を述べ、そこに潜在する攻撃意圖を述べ、或は又、策略を以つてその敵に勝つ惡魔の如き巧妙さを説く。

否、わが議員諸君！　ドイツの問題はこれとは全く異なるものである。

こゝには、甚だしく制限せられて全くおそろゝに足らざる土地の上に、六千七百萬の人々が生活してゐるのである。これは一平方キロメートルに百三十六名の割合である。これらの人々は、勤勉なる點において、他のヨーロッパ國民に劣るものではないが、又自信を持つことにおいても劣るものではない。彼等は智的な點において劣るものではないが、又生活慾求においても劣るものではない。彼等のあこがれも亦、一つの空想のためには、如何なる犠牲をも拂つて、英雄的に死せんとする點、例へばフランス人或はイギリス人に何等劣るところではない。彼等は而も亦、卑怯ならざる點及び如何なる場合にも破廉恥ならざる點、他のヨーロッパ國民と異るところはない。彼等は嘗つて一つの戦ひに引き込まれたが、その信念において他のヨーロッパ人に何等劣るところなく、その責に任ずることにおいても何等劣るところはなかつた。今日、二十五歳のドイツ青年は、この有史以前の時代及び戦争勃發の時、正に一歳であつた。



それ故全く、この國民的キヤタストローフに責任を有せざるものである。否、それに就いて責任を持たさるべき最も若きドイツ青年と雖も、當時の制定からすれば、ドイツの満二十五歳のものである。その青年はそれ故に、今日にあつては、少くも五十歳である。これ即ち、ドイツ國民の壓倒的多數は、かの大戦に單に強制的に参加せしものであつて、これはフランス或はイギリス國民の生存者の大部分も同様である。若し彼等にして適度を守るものならば、彼等が既にその年齢に達してゐる限り、當時その爲すべき義務を果せること、又適度あるフランス人及びイギリス人と同様である。若し彼等にして適度を守らざるものであれば、この義務を怠り、おそらくは義務に服さず、或はかの革命に活動したであらう。かくの如きものは然しながら、今日われらの側には多く存せず、彼等はその大部分亡命者として、何等か國際的な招待者の許にある。これらのドイツ國民は、他國民に比して遙かに多くの才能を有するが故に、却つてそれだけ、その害と疾病は大である。今やドイツの問題が存在するところは、この國民にあるのであるが、例へば、一九三五年においても、尙一つの負債を持ち、この負債たるや斷じて終ることなく、輕減さるべきものであるが、名譽を重する國民にとつては堪うべからざるものであり、

勤勉なる國民にとつては痛ましきものであり、智的なる國民にとつては激昂を催さしむるものである。ドイツの問題の尙存するところは、國民が無理性的な取扱ひと標準及び嫌惡に充ちた使嫉の一組織によつて惱まされてゐるといふ點にあり、この國民は、既に甚だ困難なる戦ひをなしながら、尙その生活主張は一層の困難に陥つてゐるのである。而もその困難は、人工的のみならず、自然に反し又無意味に重加されてゐる。何となれば、このドイツ人の生活標準の困難によつて、他の世界はいさゝかの利益をも得るのではないからである。

ドイツ人にとつて人口一人當りの面積は、例へばロシア人一人當りの十八分の一である。明瞭なことは、この事實のみによつても、日々のパンを得るための生存競争が、如何に困難を極めるかといふことであり、又、同様に明瞭なことは、ドイツ農民にかの技倆と勤勉なく、ドイツ國民にかの組織的能力が無かつたならば、この六千七百萬の現狀生活は殆んど考へ得ざることであるといふことである。而も今や人々は、かの精神的愚鈍さを如何に考ふべきであるか！このわれらの困難はおそらく充分に承知しながら、而も子供らしくも新聞記事に・印刷物に・將又演説に、われらの貧困を述べて快となし、否、全く、このわれらの内部的困窮の徴候をか

ぎつけて凱歌を擧げるが、これこそ、他の世界も亦、共に分つべきものではないか！ 彼等は、われらの困窮が、尙より大となれば、あたかも幸福を感じるが如くであり、それがわれらの勤勉と智識によつて達せられざる時は、彼等は幾回にてもその困窮に堪えしめんとする。彼等が何等の豫感をも感ぜざることは、若しも一度これら百萬の技倆と勤勉とが麻痺することあれば、従つてこの貧困のみならず、又かの政治的無理性が、重大なる結果を生むことゝなれば、このドイツの問題は、全く異なる様相を現出するであらうといふことである。而もこれこそはドイツ問題の一つであつて、世界が只關心を持つべきは——ドイツの生活標準の安定の問題も、當に余が望むが如くに、年を追ふて效果的に解決し得るといふことであり、ドイツ國民も亦、自己に利益關係を有する他國民の生活問題の幸福なる解決は、これを理解し正しく評價するといふことである。

ドイツにおけるこの問題の處理は、然しながら、先づ第一にドイツ國民自身の事件であつて、一般には、他の世界の關心を要しないことである。それが他國民の利害關係に觸れるのは、只、ドイツ國民が、この問題解決に當つて、やむを得ず經濟的な賣買者として他國民との連關を持

つに至る限りにおいてある。而して又、こゝに再びこれら他の世界が、この問題を理解するため即ちよく會得するために、その關心の中に持ち來たさるべきは——四千、五千乃至六千萬國民のバンへの叫びは、その政體或は特定の政府に對する煮えこぼれたる深怨の聲にはあらずして、生活主張に對する急迫の自然的表現に他ならないといふことである。而して又、飽食したる國民は、飢えたる國民よりもより、理性的であり、又、自國の政府は、當然その市民の扶養に關心を持つばかりでなく、これと同程度の關心を周圍の國家及び國民に對して持つべきものである。而して、これによつて、かくの如き生活主張の實現に對する工作は、その言葉の持つ最高の意味において、すべてのものゝ關心事となるのである。時代は大戦争前と同じ状態にあり、相反する見解が存在し、これを戦争の原因として宣傳さへなしてゐるが、即ち輿論を言へば、ヨーロッパの國民家族の一部が、より、善く行けば行く程、他の部分にはより、惡き結果を齎らすといふことである。

ドイツ國民は、その生活主張のために、特別なる扶助を要しない。只、他國民が與へられてゐるよりもより、惡しき機會を與へられざらんことを欲するものである。これが然しながら、第



一のドイツ問題である。

而して、第二のドイツ問題は次の如きものであつて、即ち、異狀なる不幸の一般的關係と豫想との結果、ドイツ國民の經濟的生存競争は甚だしく困難なるため、智識人は、勤勉ではあるが其のために必然的に生活水準が非常に高く、すべての力の異常なる緊張は必然となり、この第一のドイツ問題を克服せんとしてゐるといふことである。この事は然しながら、一般的に言へば、この國民に外部からも亦、政治的平等待遇と従つて又政治的安定の感情を持ち來たされた時、始めて達し得られることである。世界におけるこの名譽心と勇氣を持つ國民を、永久に奴隸として取扱ひ、或は全く牛耳らんとするが如きは不可能なることである。生れながらに自由を愛するドイツ國民に對して、この事實以上によき説明はあり得ないのであるが、それは、反對者も亦争ふべからざる彼等の技倆と勇氣とにも拘らず、又彼等の人口の大なるにも拘らず、世界の生活空間と生活資源の斯くも僅かなる部分のみを保有せる事實である。然しながら、この益々内部に向けられたドイツ魂は、不當にも權利を剝奪され虐待されることに堪え得るものではない。



かのヴェルサイユの不幸なる平和條約が、一圖に道德的側面においてのみ戦争終結を歴史的に不朽化せんとしてゐる間に、一方にかのドイツ問題を創り上げる結果となり、この問題が、ヨーロッパの危険なる壓力を未解決になしながら、然もヨーロッパの一つの解放を解決せるものとなしてゐる。

而して余は、一九一九年における平和條約の批准に従つて、この問題を遂に解決せんと企てたのである。余はフランス或はその他の何處かの國家に何等かの苦痛を與へんとせるに非ず、ドイツ國民が、永久には彼等の被れる苦痛に堪え得るものではなく、堪ふべきものにも非ず、堪えんと欲するものでもないからである！

一九三二年において、ドイツはボルシェヴィズムの崩壊に類した。かゝる大國家におけるこの混亂が、ヨーロッパに暗示したものは、おそらく、個々のヨーロッパの政治家は、未來において、他の場所にあつて、尙かゝる事件に遭遇して學ぶ機會があるであらうといふことであつた。余は然しながら、兎も角、この外的には經濟的に最も明白な現象として現はれたドイツ國民の危機を、只ドイツ國民の一般的な倫理的・道德的眞價の動員によつてのみ克服して來た。

ドイツをボルシェヴィズムより救はんと欲する人々は、ドイツ平等待遇の問題を決定し以つて解決に導かなければならない。これは他國民に一つの苦痛を與へんがためではなくして、むしろその反對に、ヨーロッパのために、最後的な規模を以つて全く考へ得べからざる程の壊滅の來るを阻止することによつて、おそらくは尙大なる苦痛をさえも嘗めんとするを防がんがためである。なぜなれば、ドイツ平等待遇の回復は、フランス國民に何等の苦痛をも與へるものではないが、ドイツ帝國の赤色革命及びその崩壊は、ヨーロッパの秩序とヨーロッパの經濟に打撃を與へるものであつて、その結果に就いては、ヨーロッパ政治家の大部分は、遺憾ながら何等の概念をも有しないのである。このドイツの平等待遇獲得の戦ひは、余が既に三ヶ年に亘つてなしつゝあるところであるが、決してヨーロッパ問題を惹起せしむるものではなくして、むしろこれを解決するものである。

眞の悲劇的不幸は、かのヴェルサイユ平和條約によつてこそ作られた一つの状態にあるのであつて、この状態を保持することによつて、フランス國民は、より善き利益を得るものと信じてゐることである。この状態が、個々のフランス人に眞の利益を保證し得ることが少ければ少

なき程、ヴェルサイユ條約におけるドイツ國民の差別待遇とフランス人の利益との間には、益々大なる虚偽の釘<sup>つば</sup>鐘<sup>かね</sup>が打たれるかに見える。おそらくそれは又、戦後のドイツの特種な疲弊とその政府、特にわが黨の責任であるのであるが、フランス國民及び先づ第一にフランスの政治家に、かゝる見解の正しからざることを、充分に理解せしめ得なかつたのである。なぜなれば、當時における個々の政府が悪ければ悪い程、ドイツ國民自身の國民的自覺をおそれなければならなかつたからである。それ故に又、すべての國民的自覺の苦悶は益々大となり、従つて又、ドイツ國民に對する國際的に擴がれる誹謗に向つては、その態度が益々一致するに至つたのである。然り、この自覺こそは、その悲劇的な自國の政體を斯くの如き方法にて支持するためには、この恥すべき桎梏を必要としたのである。この政體がドイツを何處に導くかは、遂にかのおそるべき崩壊が示したのであつた。

さて、こゝに當然困難なりしことは、ドイツの平等待遇を回復するに當つて、われらの隣國にこの不平等に關する甚だ頑強なる慣習が存在するため、この平等待遇獲得が、只に有害にあらざるのみならず、終局においては國際的に必要なることでさえあるといふことを實證するこ

とであつた。議員諸君は、余が一九三三年一月三十日以來取らざるを得なかつた困難なる道を承知の筈であるが、これは、ドイツ國民をその不當なる状態より解放せんがためであり、彼等のために一步步平等待遇を確保せんがためであり、尙その上、これ無くしては、ヨーロッパ諸國の政治的・經濟的協同は遠ざけられ、又特に、これ無くしては、舊き敵對より生じた結果を清算するも再び新しきものを生ぜしめることゝなるのである！ 余が遂に、この經歷よりして、確認せられたく要求し得ることは、余はドイツ國民のためにする余の行動に當つて、一瞬たりともその義務を忘れたることなきことであつて、それは、余及びわれわれ總てが、ヨーロッパの文化及び文明を互ひに支持すべき義務を有することである。然しながら、一つの前提として、その文化の多様性のために遂に特殊なものとなれるこの大陸を存続せしめることは自由にして獨立せる國民國家の存在なしには考へ難いのである。すべてのヨーロッパ國民に說得し得ることは、これはわれらの西洋文化に偉大なる貢獻をなしたるものであつたといふことである。全體においては然しながら、われわれは、決して個々の國民が與へたるものから去り度く思ふものでもなく、又この彼等の與へた貢獻の輕重に就いて争はんとするものでもなく、只

われらの認めざるを得ないことは、このヨーロッパの個々の業績の争ひから、疑ひもなく、人類文化の最も多様な領域の上に最高の業績が創られるものであるといふことである。それ故、われらが充分に用意せるところは、このヨーロッパ文化世界に、自由にして同權なる一員として活動せんとすることであるが、同時にわれらの頑強に且つ執拗に希望するところは、われらの有するものをも亦殘存せしめんとすることである。

余がこの三ヶ年間——遺憾ながらあまりにも屢々無効にのみ終れるが——常に試みて來たことは、フランス國民との間に協定の橋をかけ渡さんとするのであつた。われらが大戰及び戦後に嘗めた悲惨から遠ざかれれば遠ざかる程、益々生活の惡とより、美しきものとの人間的思ひ出にふけり、その認識と經驗とが前面に浮び出るのであつた。嘗つては最も憤激せしめる敵として對峙したのも、今日では、過去の一大戦における最も勇敢なる戰士として考へられ、再びこれを一つの偉大にして共通なる人類文化の財寶を擔ひ且つ維持するものとして考へられるのである。

然らば、何故にこの無目的なる百年の争ひをなし、兩國民の何れからも嘗つて最後の決定を



齎らしたことなく、齎らし得ず、又未來に齎らしさうにも思はれぬこの争ひを斷絶せしめ、一つの高き理性よりの考慮をこれに代へることを、何故に不可能となすのであるか？ ドイツ國民はフランス人の憐むのに關心を持たず、又その反對に、ドイツ人が困貧に陥ればフランス人にどれ程の利益があるのであるか？ ドイツが困窮しやうと或はその反對であらうと、それがフランスの農民にとつてどれ程の利益であるか？ 或は又、フランスの勞働者に、ドイツの困窮から、どれ程の利益が齎らされるのであるか？ 然し又フランスが不幸に陥つたとしても、それが、ドイツのために、ドイツ勞働者のために、ドイツ中産階級のために、將又ドイツ一般國民のために、どれ程の祝福となり得るのであるか？

余の企て來つたことは、ドイツ内部における嫌惡に充ちたる階級鬭争の原理に對する問題を、高き理性の精神によつて解決せんとすることであり、而して余はこれに成功したのである。ヨーロッパの國民及び國家間の對立の問題を、無理性的にして逆上の領域より取り出し、高き識見の靜かなる光の中に持ち來すことを、何故に不可能なりとなすのであるか？

余は如何なる場合にも一度は沈黙し、頑強にして勇敢に、ドイツの平等待遇獲得のために戦



はんとし、而してこれの兎も角も達せられたることは、反對の如くにも見えるが、ヨーロッパが相互的に顧慮し協同をなすことの必至に對する責任感情を強めたことである。

若しも余が今日、國際的に存在する余の敵の側より非難せられ、余がこの協同を、ロシアと共に拒否するものとなすならば、余はそれに對して、次の如く説明せざるを得ないのであるが、即ち、余はそれをロシアと共に拒否し又拒否せしにあらで、むしろ、世界支配を要求するボルシェヴィズムと共に拒否するのである。余はドイツ人である。余はわが國民を愛し、これに愛着するものである。余は、この國民の生活が、その本質と氣風に合ふ時にのみ、始めて幸福となり得ることを知るものである。余の欲せざるところは、——このドイツ國民の上に、只に泣くのみならず、その全生涯を通して常に心から笑ひ得るこの國民の上に、コミュニニスト的な國際的憎惡の獨裁の恐怖を與ふることである。余はヨーロッパのためにこの考への起る毎に戰慄を覺えるのであるが、それは、若しも、この破壊的にして・今日までの價值を轉倒せしめる・アジア的世界理解によつて、ボルシェヴィズムの革命が成功することがあれば、われらの古くして人間過剩のヨーロッパ大陸は如何になるであらうかといふ考へである。余はおそ

らく多くのヨーロッパ政治家に對しては、一個の空想的な然も如何なる場合にも邪魔な忠告者となるであらう。然しながら、余がボルシェヴィスト的なインターナショナルな世界壓制者の眼には、一個の大なる敵として映るといふことは、余にとつては只一つの大なる名譽たるのみにして、後世は余の行動を是認するのみである。余は、他の國家が自己の道を行くことを阻止することは出来ないであつて、その道をその國家は行かざるべからずと確かに信じ、或は少くも行き得るものと信じてゐるのであるが、然しながら余は、ドイツが亦この道を滅亡へと踏み込むことは阻止するであらう。而して余の信ずるところによれば、この滅亡は、その瞬間に於いては、堂々たる姿にて入り來り、その中に國家の指導勢力は、自らかゝる破壊的教義に力を借し與へんとするものである。余はドイツ勞働者のために、余を深く動かせるボルシェヴィズムの混亂の不幸なる危險を、ドイツ國內において解決せんとするに當つて、若しも余が國民の指導者として、密接な關係において身をこの危險に曝さんとするならば、その解決の何等の可能性をも見出し難いのである。余は又ここに、政治家として又國民の指導者として、余が個々の同國人より期待され・希望されたるすべてのことをなさんと欲するものである。余は、國民

のために有害なる世界觀に密接なる接觸をなすことが、政治家にとつては有利なるものとは信じないものである。われらはドイツ歴史の中にあつて、この最近二十年間に、確かにこの領域に於ける經驗を集積するの機會を持つたのであつた。ボルシェヴィズムとの第一の接觸は一九一七年であり、一年おくれてわが國自ら革命を起したのであつた。第二の接觸は、僅少の年月をもつて、ドイツを殆んどコムニニストの崩壞の縁にまで持ち來たすに充分であつた。余はかゝる連關を解決し、従つて又、ドイツをこの滅亡より引き戻した。何者も、余を動かして、經驗と識見と先見が余に命ずる道以外の道を行かしめることは出來ないであらう。而も余は、かゝる信念が、全國家社會主義的運動の最も深き思想及び理想の實となれることを知るものである。頑強なる堅忍をもつてすれば、われらは、わが國民の社會問題及び軋轢は、一つの繼續的發展の途上において解決せられ、従つて又、すべてわれら同國人の利益となる一つの平安な發展の祝福が保證されるであらう。而して、それと同時に常に新しき課題をもつてわれらに來るものは、われらを一つの歡びをもつて充たすのであるが、その歡びとは、勞働なく従つて又課題もなくして生存することは許されないといふことである。

若しも余がこの根本的着眼點を、ヨーロッパの一般政治に置くならば、余のためにヨーロッパは二つの部分に區別せられることとなり、その一半は、獨立自主の國民國家によつて結成せられるものであり、これを結成する國民は、われらがその歴史と文化を通して、幾度となく同盟したものであり、又同時にわれわれは未來において、ヨーロッパ以外の大陸における自由獨立なる國家とも同盟せんとするものである。而して他の一半は、かの偏狹にして一般的國際的支配を要求するボルシェヴィズムの教義によつて支配されるであらうが、この教義は、永遠にして・われらにとつては神聖なる現在及び來世の價值を否定し、われらにとつては、その文化も外觀も内容も、おそろしく見える一つの他の世界を建設せんとするものである。

彼等とは、われらは與へられたる政治的・經濟的なる國際的關係以外にあつては、何等の特別なる内部的接觸を欲しないものである。

こゝに只永遠に終らざる悲劇の存するのは、われらが永年公明なる態度をもつて、フランス人に對して信頼と・同情と・好意とを持つべく努力したにも拘らず、その窮極において一つの軍事同盟の結ばれたることであつて、この同盟の發端は、今日われらの知るところであるが、そ

の終結に就いては然しながら、若しも神意が今日人間に與へられてゐる程には再び悲慈深くないとすれば、おそらくは、豫測し難い結果を齎らすこととなるであらう。

余が最近三ヶ年間に努力し來つたことは、徐々にではあるが確實に、獨佛協定のための前提を作り出さんとするのであつた。余がその際、何等の疑をも持たなかつたことは、この協定の前提においては、絶對的な平等待遇と従つて又平等なる權利評價が、ドイツ國民及び國家に齎らされるといふことであつた。然しながら、余がこの協定において自覺してゐたことは、只にその協定の途上において解決せられる問題のみを見るのでなく、直ちに兩國民の間に心理的に齎らされる問題をも見なければならぬといふことであり、それは、只に理性的にばかりでなく、又感情的にも用意せられなければならないものであるといふことであつた。余はこれによつても亦屢々非難せられるのであるが、それは、余のかゝる友交的提議が、何等具體的な提言をも含み得ざるからといふのである。

然しながら、これは正しからざることである。

この獨佛關係の發展に對して一般的に提言し得る具體的なものは、余も亦勇敢に具體的に



提言して來たのである。余は嘗つて一度も躊躇することなく二十萬人の軍備制限なる具體的提案に従つたものである。余はこの提案を、當時その責任ある發案者より任されたる時、一つの全く具體的な新提案をもつて、フランス國民及びヨーロッパ諸政府と接渉したのであるが、その三十萬人の提案も亦拒否せられたのであつた。

余は尙幾多の提案をなし、各國に於ける輿論の整調、戰爭を誘發するものゝ除去、而してこれによつて最後には、徐々にではあるが確實なる軍備徹廢を齎らさんとする提案をもなしたのである。これらドイツの諸提案のうちにあつて、只一つ實際的に考慮せられたものがあつたが、それは、現實的感覺を持つイギリス政府が、獨英海軍間の從來よりの關係を改變せんとするこれらの提案を採用したことであつて、これはドイツ保全の必要に應ずるものであり、又一方において一大世界帝國の非常なる海外利害關係を考慮に入れたるものであつた。余がこれに就いておそらく指示し得ることは、即ち、この協定こそは、實際に今日まで尙實功を持つて存在し、眞に思遣り深く従つて成功せる軍備制限の企てとして存續して來た唯一のものであるといふことである。わが帝國政府は、この際、イギリスと尙廣き量的協定をなすことによつて、この條



約補充せんとするものである。

余が極めて具體的な原則を述べるならば、即ち國際的協約マニアのプログラムの集積は、その實現の見込の少きことは、かの提案の尤たるもの。かくの如き情勢の下にあつて既に最初から實現の見込なきこと明なる世界軍備徹廢案にも等しいものであるといふことである。それにも拘らず余が強調せんとするところは、即ち、一步々々のみこの問題には近付き得るのであり、然も最も反對の少なきかに思はれる方向へ向つてのみ近付き得るものであるといふことである。余はかゝる信念の下に、この具體的な提案を、一つの空虛なる協定のためにも説明し、同様な強き基礎をもつて、フランス、イギリス及びドイツのためにも説明したのであつた。その結果は、最初においては、この提案の輕視となつて現はれたが、やがて、その軍事的膨大さにおいては量り知り難い一つの新しき東ヨーロッパ的アジア的要因が、ヨーロッパの平衡の取れたる領域に現はれたのであつた。

余は多年かくして、この具體的な提案に従事して來たが、然も余は何等躊躇する事なく斷言するが、少なくとも余にとつては、所謂具體的提言と同じ程度にこの協定のための心理的用意

が重大なるものと思はれるのであり、而して余はこの領域においては、他國の公明なる政治家に何時か望み得る程度のものよりも、以上のことをなしてゐるのである。余は永久に續くヨーロッパの國境修正問題を、ドイツ國內の輿論の空氣の中より取り除いたのであつた。人々は遺憾にも、あまりにも屢々この立脚點にのみ立ちたがるものであり、而してこのことは特に外國の政治家に當てはまるのであるが、かゝる立脚點とその行動は、何等特殊な意味を齎らすものではない。余の指示せんと欲することは、余にとつて實に容易なることに思はれるのは、ドイツ人として一九一四年の國境の回復を道德的に主張し、余のプログラムとして提出し、新聞雜誌及び演説によつて主張するといふことであり、これは丁度、フランスの大臣及び國民指導者などが、一八七一年以後に行つたことである。わが國の批評家諸君は、又この領域において、余のあらゆる能力を否認すべきではない。一個のナシヨナリストにとつて、國民に協調を勧告することは、その反對を説くことよりも數等困難なることである。尙又、余にとつて一層容易に思はれることは、一つの復讐に對する本能を鞭打つことであつて、これは、ヨーロッパの協調を必要とする感情を目覺ましめ、これを永續的に深めて行くことの困難さの比ではない。而も

余はこれをなしたのである。余はかゝる方法によつて、われらの隣國民を攻撃せんとする輿論を取り除いたのである。

余はドイツの新聞より、フランス國民に對するあらゆる憎しみを取り除いた。余の努力したのは、わが國の青年に、かゝる協調の理想に對する理解を呼びさますことであり、而もこれは確かに無効なことではなかつた。數週前、フランスの賓客をガルミツシュ・バルテンキルへのオリムピック競技場に案内したのであつたが、おそらくこの賓客には、余がドイツ國民のかゝる内部的轉向に成功せしか否か、又如何なる程度に成功せるかを、よく知るの機會となつたであらう。

然しながら、かゝる協調を求め又思出さんとするこの内部的好意は、政治家達が頭を絞り盡して、世界を法學上及び實際上の・明瞭性を缺く協定の網によつて織りなさんとする試みよりも、より重大なるものである。

かゝる努力は、余にとつては然しながら、二重に困難なるものであつて、その理由は、余が同時にドイツを一つの條約の係蹄より解放しなければならぬからであるが、その條約は、ド

イツからその平等待遇を奪ひ、一方その條約の維持を——正當であるか不當であるかは第二の問題として——フランス國民は自己に利益のあるものと信じて來てゐるのである。

余はかくしてその際、ドイツのナシヨナリストなるが故に、ドイツ國民に尙特に困難なる犠牲を持ち來たさなければならぬことになるのである。

こゝに今日まで、少くともこの改新の時代においては、未だ決して試みられなかつたことは、一つの戦争の後、獨裁君主權の敗者に對して、その帝國の古き大部分を簡單に剝奪するといふことであつた。余はこの協調に關係を持つが故にのみ、かゝる最も困難なる犠牲——これは人々がわれらに、政治的に又道德的に課し得るものであるが——この犠牲を負ひ來たり、尙負ひ續けんとするものであるが、それは只余が、一つの條約を維持すべきものと信するが故に過ぎないのであつて、その條約はおそらく、フランスとドイツ及びイギリスとドイツの間に存する政治的雰圍氣を除くための協力をなし得るものであり、安全感をすべての側に傳播するための協力をなし得るものである。

然り、尙その上に、余が屢々、又この議事堂においても主張して來た意見は、即ち、われら

は只にヨーロッパの平和獲得のために、他國も亦その義務を果たす限りにおいて、この最も困難なる貢獻をなさんと用意せるのみならず、われらは、この條約の中に、兎に角、ヨーロッパ保全の具體的試みの唯一可能なるものを認めるからである。

わが議員諸君には、この條約の内容と意味とは既に知られてゐるのである。これは一方ベルギー及びフランスと他方ドイツとの間に、將來武力の行使を阻止せんとするものである。既に以前から締結されてゐたフランスの同盟諸條約によつても、このロカルノにおけるライン協定の精神は、兎に角今尙破棄せられてゐないものとして存在してゐた。ドイツはこの協定に對して最も困難なる貢獻をなしてゐたのであつて、その理由は、一方においてフランスはその國境エルツに、コンクリートと武器の武裝をなし、多數の守備兵を配置してゐる間に、われらには引續き西部國境における絶對非武裝の維持を課せられてゐたからである。それにも拘らず尙われらがこの負擔に堪えて來たのは、一大國のかくの如き困難なる貢獻が、ヨーロッパの平和に役立ち、國民間の協調に役立つものとの期待を持つたからである。

今やこの協定に反對する條約が成立し、これをフランスは前年ロシアと締結し、すでに批准



をも了し、その確認は議會によつて今行はれてゐる。實にこの新佛ソ條約は、チエコスロヴァキアを迂回して——この國も亦同様の條約をロシアと結んでゐるが——一つのライン帝國なるおそるべき軍事的勢力を中央ヨーロッパに導き入れることとなつたのである。この際不可避なることは——この兩國がその條約によつて義務を負ひ、東ヨーロッパに紛糾の起つた場合、國際聯盟會議によつて既に決定せるもの乃至は決定せんと期待せられるものを無視して、自己の判定に従つて、その何れに罪あるかを表明し、従つて又相互援助義務を既定のものとして見ることである。

この條約において、その附加せられた制限によつて、第一の義務が再び止揚せられるとの主張は理解し難きものである。なぜなれば、一つの點において明確なる破壊としての決定的處置をなしながら、次の點を確立せんがために、その他の義務に對しては觸れざるものとするとなして、嘗つて存在した義務をも留保し、従つて又これを強制的なるものとなさんとするが如きは、余のよくなし得ざるところであるからである。この場合にあつては、第一の義務は意味なきものであり、従つて當に理解し難きものであらう。



この問題は然しながら直ちに政治的問題であり、而して政治問題としてその重大なる意味を評價すべきものである。

フランスはこの條約を或る任意なヨーロッパの一國と締結したものではない。フランスは既にライン協定以前に、援助條約をチエコスロヴァキア及びポーランドと結んでゐたのである。ドイツはそのために如何なる異議をも申し立てなかつたが、それは、この條約が佛ソ條約と異なるがために聯盟の確認に屈したのではなく、當時のチエコスロヴァキアは、特殊なポーランドと同じく、主として常に、これら國家の自國の利害を代表する政策を取りつつあつたからである。ドイツはこれらの國家を攻撃せんとする意圖を持たず、又これらの國家がドイツ攻撃を企てることによつてそれらの國家に利益があるとは信じなかつた。畢竟、ポーランドは遂にポーランドであり、フランスは遂にフランスであつた。然しながら、ソヴェート・ロシアは一つの革命的世界觀の國家的に組織せられた指數である。その國家觀は、世界革命に對する信條である。明日或は明後日フランスも亦、この世界觀を持つに至るかも知れないことは保し難いことであり、かゝる事態の發生した場合には——ドイツの政治家として余も亦これを計算に入れなければ

ばならないのであるが——この場に確實なことは、この新しきボルシェヴィズムの國家は、ボルシェヴィスト的な國際主義の一翼となるといふことであり、即ち、攻撃すべきか攻撃せざるかの決定は、相異なる二つの國家が、その目的に従つて各自の判斷によつてなされるのではなくして、一つの地點から直接に與へられるに至るのである。その地點は然しながら、この場合にあつては、パリではなくしてモスカウであらう。

この場合ドイツは、僅かに純粹に領土的根據よりロシアを攻撃する立場にあるだけであるが、ロシアは常にその名義上の場所を通じて、ドイツとの紛糾を誘致することの出来る立場に置かれるのである。それ故、何れが攻撃者であるかを確定する場合には、國際聯盟會議の決定から離れて、その獨自の立場にて決定するは元より明かなことである。フランス及びロシアがなしたのに非ずとなす主張或は異議の申し立ては、萬一彼等が制裁を受けることがあり得る場合——然もそれがイギリス乃至イタリアの側よりなされたとしても——それは無價値なのであつて、なぜなら、いかなる方法によつて實際の制裁を、かくも壓倒的世界觀と軍事的獨特な組織を有するものゝ上に課し得るかは、結局斷定し得ないからである。

われらは多年この發展を憂ひをもつて警告して來たのであつた。それはわれらが彼を他のもの以上に恐れたがためではなく、それが他日全ヨーロッパにおそるべき結果を齎らすこととなるからであつた。人々はこのわれらの最も眞面目な危惧を除かんとして、ロシアの戦闘利器の不備を指示し、或は又その武器がヨーロッパ戦争には不適當なものであり利用し得ざるものなることを指示せんとした。われらはかゝる解釋には常に反對して來たのであるが、それは、われらがその信念の中に、或はドイツがこれに敗れるかも知れないといふ危惧を持つたからではなくて、われらはすべて、その數も亦特種なる重大性を持つことを知つてゐるからである。然しながらわれらは、フランス議會において、エリオット氏によつてなされたロシアの攻撃的な軍事的意義の説明に非常に感謝するものである。われらはこの説明がエリオット氏にソヴェト政府から與へられたものであり、又これはフランスにおける新同盟の精神的監督者に、虚偽の説明を與へるものでないことを知るものであり、同時にわれらは、エリオット氏によるこの報告の眞實の寫しを疑はないのである。この報告によれば然しながら、先づ第一に確實なるは、ロシア軍の平時兵力は一、三五〇、〇〇〇人であり、第二に戰時兵力及び豫備軍は千七百五十萬

に及び、第三に大タンク隊が備へられ、第四に大空軍が制定されてゐるといふことである。

かゝる強力な軍事的要因が侵入するのにおいては、その軍の輕快性においても、又その運用の點においても、優秀にして常に機を狙ふと言はれてゐるのであるから、中央ヨーロッパ活動地帯において、その實際的なヨーロッパの均衡を粉碎されるのである。尙その上にこれは、當該ヨーロッパ諸國特に明かに唯一の敵と考へられてゐるドイツにとつては、陸上及び空中に必要なる防禦手段のあらゆる査定を阻害するものである。

この中央ヨーロッパに對する東方の膨大なる動員は、只單に文字の上のものではなく、特にも、かのロカルノ條約の精神に反する意義を持つものである。これはわれらのみが當該國としてかく感ずるのみでなく、あらゆる國民間における賢明なる無數の人々の感ずるところであり、同時に又——新聞雜誌及び政治學の證明するが如く——全く明かに蹂躪せられたるものである。

二月二十一日にフランスの一新聞記者は、余に會見せんことを求めて來た。この時、余に傳へられたことは、この一フランス人も亦、われらが努力せると同じ程度にこれを問題にし、兩

國民間に協調の道を見出さんと努めてゐるといふことであり、この會見の拒否によつて、これが直ちに余のフランスチャーナリズムの輕視の證左と見なされざるやうとのことであつた。余は求められた説明を與へたが、それは余がドイツにおいて幾百回幾千回となく公言したところのものであり、而して余が今一度試みたことは、フラン國民に余が協調を切望することであり、この協調はわれらが心から期待してゐるものであり、その實現を見ることは如何に歡ばしきかを述べたが、然し尙その上に余は、一つの條約の締結によるフランスのおそるべき發展に對して余の深く遺憾とするところを述べ、これに對してはわれらは如何なる必然性をも信じ得ないのであるが、その實現のあかつきには當然新しき事態が発生せざるを得ず、又發生するのであらうといふことを述べた。この會見記は諸君の知る如く、われらに知れざる理由によつて抑留せられ、かの條約がフランス議會によつて批准せられた翌日始めて發表せられたのであつた。余はこの會見における余の布告と全く同一に將來に處せんとするものであり、而して公明に余の成さんとするところは、この獨佛協調に努めることであるが、それは、余がその中に、見極め難き危険の前にあるヨーロッパを安定さすために必要な要素を見るからであり、又余が



兩國民のために、これ以外の如何なる方法からも、何等か可能なる利益を期待し得ず、或は又それを見ることさえも出来ないからであり、然しながら最も困難なる一般的にして國際的な危険をよく見れば見る程、この條約の最後決定的なる締結を知つて、余はそれによつて發生する新事態の試鍊の中に入り込み、そこから起る必然の結果を引き出さんと欲するのである。

これより生ずる結果は非常に重大なものであり、それはわれら及び余個人としても甚だ遺憾とするものである。然しながら余の義務は、ヨーロッパの協調のために、徒らに犠牲を拂ふのみにあらず、わが國民の利益にも亦従はなければならない。一個の犠牲が、その反對者において評價せられ理解せられる限りは、余は歡んで余を犠牲とすることを承認し、ドイツ國民にも亦同じことを勸告するであらう。今、然しながら、相手がこの犠牲を最早や正しく評價せざることとが確立してゐるにおいては、ドイツの一方的なる義務を廢棄し、これによつてわれらに堪え難き差別待遇をも廢棄すべきである。余は然しながら、この歴史的瞬間において、而して又この席において、今一度繰り返さんと欲することは、一九三三年における余の最初の偉大なる議會演説に述べたる言葉であつて、即ち、ドイツ國民は、名譽の命するところと、自由への意志



と、平等待遇とを放棄するよりは、寧ろあらゆる貧困と窮迫を取るであらう。

若しもドイツ國民が、ヨーロッパの協同に對して、何等かの價值ありとなすならば、その價值は只名譽を愛し従つて平等の待遇をなされたる相手としてのみ持ち得るものである。今それが停止せられたる時、この特殊なる價值を所有せんとするならば、又あらゆる實際的價值をも失ふのである。余はわれらをも又他の世界をも欺くを欲せざるものであつて、最も自然なる名譽感を缺く國民には、もはや何等の價值もあり得ないのである！

然しながら、余の又信するところによれば、人々は、かくも悲慘なる認識とかくも重大なる決意の瞬間においてさえ、忽せにしてならないことは、このヨーロッパの協同が、兎に角最初にあつては正しき意圖の下に始まりしものであり、新しき道を求めんとしてゐるのであるから、すべてのものに利用し得る意味において、この問題の解決を可能ならしめることである。

余がそれ故に努力せんとするところは、具體的な提案において、ドイツ國民の感覺に表現を與へんとするにあり、ドイツ國民は、その安定に心を碎き、自由のためにはあらゆる犠牲をも用意し、而して實際に公正にして平等待遇をなすヨーロッパの協同も常に望むところである。

重大なる國內の論争の結果、余はこゝにドイツ政府の名において決意し、今日、フランス政府及びその他のロカルノ條約署名國に、次の如き覺書を手交するものである。

## 覺　　書

一九三五年三月二日に批准せられたるフランスと社會主義ソヴェート共和國聯邦との間の條約が弘布せられるや、ドイツ政府はロカルノにおけるライン條約の其他の署名國政府に對し、フランスが新條約において締結せる義務は、ライン條約によつて生ずる義務と調和せざることの注意を喚起した。ドイツ政府は、その立場を、當時法律上及び政治上詳細に亘つて基礎づけたのである。然も、法律上の關係においては一九三五年三月二五日のドイツ覺書により、政治上の關係においては數度の外交的商議によりこの覺書を決定するに至れるものである。關係政府は、又ドイツ覺書に對する書面による回答によるも、又外交的手段により或は公開聲明により提示せられたる論證によるも、ドイツ政府の立場を震撼せしめ得ざることを知るものである。實に總ての論争は、一九三五年三月以來外的に又公開的にこの問題に關してなされ、すべて

の點において只ドイツ政府の解釋を確認するに過ぎず、それはドイツ政府が最初より表明せるところのものである。

一、佛ソ條約は専らドイツに對して向けられたるものなることは否定し難い。

二、フランスは、ドイツ及びソヴェート聯邦間に紛争の勃發せる場合、國際聯盟規約によつて委任せられたる義務を遙かに超え、聯盟會議の推薦によるか或は一般にその提示せられた判決によるか何れかにすべき場合においてさえ、ドイツに對して敢えて軍事行動を取るに至るは否定し難い。

三、かくしてフランスはかくの如き場合、自己の判定において何れが侵略國なりやを決定する權利を要求するは否定し難い。

四、これによりてフランスは與へられたる場合あたかもそれに適用すべき規定に關係ある聯盟規約もライン條約も存在せざるが如くに實際には行動するに至るは確實である。

佛ソ條約のこの結果、ドイツに對する軍事に對して、保證國たるイタリア及びイギリスの側よりこの行動に對する制裁を受けなければならぬ場合、その義務なしとなす一つの例外を作

り出したことは否定し難い。この例外に對して、既に事實として決定的に存在してゐるのは、ライン條約が單にイギリス及びイタリアの保證義務の上ばかりでなく、第一に佛獨間の關係を確定する義務の上に立つてゐるといふことである。

問題はフランスがこの佛ソ條約の義務を取るに當つて、ドイツの關係に於てライン條約によつて定められたる制限を守るか否かにかゝつてゐる。

これは然しながらドイツ政府は否定せざるを得ない。

ライン條約の目的はドイツと佛白とが將來互に武力の行使を拋棄することによつて西歐の平和確保を實現するにある。ライン條約締結に際し自衛權とは別に戰爭拋棄に對する既定の例外が容認されるとすれば、その政治的理由は周知のごとくフランスがポーランド及びチエコスロヴァキアに對し既に一定の同盟義務を負擔してゐることである。ドイツは當時その良心から戰爭拋棄の制限に敢て異議をさし挾まなかつた。がその際云ふまでもなく前提となつてゐることは、右佛・波・チエコ間の諸條約がライン條約の構成に適應せるものであつて、國際聯盟規約第十六條の施行につき佛ソ條約締結において用意されてゐるとき何等の規定を包含しないこと

である。而してこれと合致するごとく右特殊協定の内容は當時のドイツ政府に漸次判明して來た。ライン條約に許容されてゐる除外例は勿論明かにポーランドとかチエコスロヴァキアとかを指しては居らず抽象的に述べられてゐる。たがこれに關係ある一切の商議の精神となつてゐるところは、唯獨佛間の戰爭拋棄とフランスの願望との間に既存の同盟義務を持続するごとき調整を發見するにあつた。それ故フランスがライン條約の中の戰爭を惹起しそんな敘述を利用して高度に武装せる或國家と新しい同盟をドイツに對し締結しようとするならば、かくて獨佛間の戰爭拋棄の効果を更に而も決定的に縮減しようとするれば、而してこの際上述のごとく苟も確定せる正當な限界を守らうとしないならば、それとゞもに全く新たな狀態が創造され、ライン條約の政治的體系はその精神においてもまた事實においても全く破壊されたものである。

フランス議會における最近の討議及び決議によつて、フランスがドイツの抗議にも拘らず、ソヴェート聯邦と愈々批准しようとして決定してゐることは明かである。云ふまでもなく唯一回の外交的會見を行つただけで、フランスはこの條約に對してなした一九三五年五月二日の署名を以て早くも效力を發生せるものとするに至つた。しかし斯様な歐洲政局の發展に對し、ドイツ



政府がその記されたドイツ國民の利害休戚を放任又は拋棄するを欲しないならば、袖手傍觀することは不可能である。

ドイツ政府は近年種々の外交々渉において常に次のように強調した。即ち他の條約當事國がライン條約に忠實なる限り、ドイツも亦それより發生する總ての義務を遵守し且つ履行せんと欲する、と。この自明の前提すら最早フランスの側で實行してゐるとは見られない。フランスはドイツが繰返し友好的提言をなし、平和の確保を誓へるに拘らず、これに應ふるにライン條約を破棄してソヴェート聯邦との間に、ドイツのみを敵とする軍事同盟を締結したのである。しかしそれとともにロカルノにおけるライン條約はその含める精神を喪失し、實質上その效力を停止せるものである。それ故ドイツ側においても最早この失効せる條約に拘束されるものは考へない。ドイツ政府はやむなく今後はこの同盟から新に生起せる状態に適應せざるを得ない。即ち佛ソ條約がこれと並んでソヴェート聯邦・チエコスロヴァキア間に締結された同盟條約によつて補足されることによつて齎らされた一層尖鋭化する状態に適應せざるを得ない。いづれの國民もその國境を確保し、國防に留意する基本權を有するといふ理由で、ドイツ政府は今



日を以てラインの非武装地帯におけるドイツ國の完全且つ無制限な主權を恢復したのである。

しかしドイツ政府のあらゆる意圖が誤解されんことを豫防し、このやむを得ざる手段が純防禦的性質である點を疑なからしむるため更にドイツが平等の權利と平等の敬意を有する國家間に存するヨーロッパの現實の平和に對し、永久に變らぬ渴望を有することを外部に表現するため、ドイツ政府はこゝに下記の提議に基き、直ちにヨーロッパの平和確保の組織を建設すべき新協定を作り上げんとする用意あることを明言する。

一、ドイツ政府はフランス及びベルギーとの間に、双方において非武装地帯を設置する點につき直ちに商議に入り、本來の完全な平等を前提とするものならばそれが如何なる程度であるにしろ、かゝる提議に應ずる用意を有することを明にする。

二、ドイツ政府は西部國境の不可侵性を確保せんがため、獨・佛・白間に不侵略條約を締結しその繼續年限を二十五ヶ年に定めんとする用意あることを提議する。

三、ドイツ政府はイギリス、イタリア兩國を招請してこの不侵略條約を保證する強國として兩國が署名されんことを希望する。

四、ドイツ政府はオランダ政府が希望し、條約締結の相手國も妥當と認めるならば、オランダをもこの條約に關與せしめることに同意する。

五、ドイツ政府はこの保障協定を一層強化するため、西歐諸強國間に一種の防空條約を締結する用意がある。この防空條約は突然の空襲危險に對し自動的に且つ有効に防衛の任務を果すべきである。

六、ドイツ政府はポーランドのごとく東方においてドイツと國境を接する諸國とも同様に不侵略條約を締結する用意あることを繰り返し提議する。リトアニア政府はこの數ヶ月間にメーメル地方に對する同國の地位につき若干の訂正を施したので、ドイツ政府が嘗ては設置する必要を認めたリトアニアに關する例外を撤回して、メーメル地方の自治を保證するに足る何等か有效なる組織を前提としてリトアニアともまたかゝる不侵略條約に署名する用意あることを明言する。

七、ドイツが今後最終の目的たる平等權を獲得し、且つ全ドイツ領土の上に完全な主權を恢復した時、初めてドイツ政府は國際聯盟脫退の主要理由が除去されたものと考へる。故にドイツ

ツ政府は再び國際聯盟に加入せんとする用意を有する。その場合ドイツ政府が期待するところは、友好的商議を相當期間繼續した後、植民地領有の平等權、並びに國際聯盟規約をヴェルサイユ條約の基礎より分離することの二つが宣言されんことである。

ドイツ帝國議會議員諸君よ！ この歴史的瞬間にはドイツの西部諸州において、ドイツの軍隊が今その將來の平和的守備地に向つて進駐しつゝあるが、この時われわれは一人残らず一致結束して神聖なる次の二項を承認しよう。

第一に、わが國民の名譽恢復途上においては、如何なる權力、如何なる暴力に對しても斷じて一步も退却することなく、最大の困難に遭遇しては瓦となつて全きをはかるよりも寧ろ玉碎せんことを誓ふ。

第二に、今こそ歐洲諸國民の協調殊に西方の諸國民及び隣國人との協調をはかるべき時なりと認める。

治世三ヶ年、余は今日を以てドイツの平等權獲得のための戦ひは終結せるものと信ずることが出来る。しかし余の信ずるところによれば、それとゞもに歐洲の集團的協力から退却したわ

これらの第一の前提は消失した。それ故今後かゝる協力に復歸する用意を有するとすれば、次のごとく公明正大なる希望を以て復歸するのであるが、即ちそれは過去三ヶ年の經過と回顧とによつて歐洲諸國民においてもわれわれの協力に對する理解を深めることに役立つであらうといふ希望である。

われらはヨーロッパにおいて何等領土的要求を提出してゐない。先づわれらの知るとは、誤れる領土の決定によるか、又は人口とその生活領域との不釣合によるあらゆるヨーロッパの緊迫は、遂には戦争によらざれば解決し得ないものであるといふことである。しかし希望するところは、人類の理解力によつてこの艱難なる事態を緩和し、徐々ながら進歩する發展しつゝある平和的協同を妨げるところの緊迫を除去せんことである。而して特に余が今日この時深く感んずるのは、恢復した國民の名譽と自由とからわれらが負へるものは全く義務に外ならぬといふことである。然りドイツ國民のみならず、全歐洲諸國に對する義務である。

これにより余はこの場所において今一度、前回ここにおいて十三點に亘り言明せるところの思想を歐洲諸國民の記憶に呼び起して、われわれドイツ人がこの現實的な理想の實現に可能且

つ必要なることは何事をも辭せざるものなることを斷言し度いのである。

わが黨員よ！ この三ヶ年間余はドイツ政府を率ゐ、ドイツ國民の嚮導に務めた。余が豫見せる如くこの三ヶ年間に母國の勝ち獲たる結果は偉大である。われわれの國民的・政治的・經濟的生活のあらゆる方面において、われわれの地位は大いに改善せられた。しかしながら現代においては數多の内憂外患に悩まされ、不眠不休の日夜が続くことをも今日認めねばならぬ。余がドイツを今日のごとくなし得たのは、自らわが國民の獨裁者としてではなく常にその指導者として・受託者としての氣持を以つてなしたからである。余はドイツ國民をして余の理想に深く同意せしめるため十四年間奮闘し、而して國民の信賴を博した結果は、尊崇の的たる元帥に召し出されたのであつた。しかし余はその後においても自ら進んで全力を盡し、一國民としてまた指導者として全國民と固く結ばれたのであつた。余はわが國民の名譽と自由とを恢復せるこの歴史的瞬間を終るに當つて、ドイツ國民に對し、今後余及び余の全協力者並に戰友とともに次のごとき事後承認を願はんことを乞ふものであるが、それは余が近年必ずや一見獨斷的な決斷をなし、冷酷なる處置を執り、大なる犠牲を要求したであらうことに對してである。



よつて余は今日ドイツ帝國議會を解散し、ドイツ國民をして余及び余の協力者の指導に對する判斷を發表せしめることに決定せるものである。この三ヶ年間にドイツはその名譽を恢復し、信念を取戻し、至難なる經濟的窮狀を征服し、最後に新な文化的向上に向つて歩を進めることになつたのである。これについては余は良心を以てまた神においても明言して憚らぬものである。余が今ドイツ國民に願ふところは、國民の意志によつて余が信念を強化し、余に特殊な力を與へ、國民の名譽と自由とのためには常に果敢に行ひ、又經濟的安寧のために配慮を得せしめんことである。而して眞の平和を獲得せんとするわが鬭争においては特に余を勵まさんことである。



昭和十二年十一月十二日印刷

昭和十二年十一月十五日發行

ナチスの戰宣

金五十錢

複製不許

翻譯者

大東文化協會研究部

發行者

東京市神田區一ツ橋二丁目九番地  
井田勝久

印刷所

東京市牛込區西五軒町五十二番地  
青年教育普及會印刷部

發行所

東京市神田區一ツ橋・教育會館內  
電話九段(代表)四一五一番  
振替口座東京一二七七番

青年教育普及會

# 圖書一覽抄

(圖書目錄)  
(無料贈呈)

東京神田一ツ橋・教育會館内  
振替口座東京一二七七番

青年教育普及會

國學院大學 教授文學博士	武田 祐吉	國文學に現れたる上代の日本思想	金四十五錢 送料四錢
國學院大學長 文學博士	河野 省三	日本民族の信念	金三十錢 送料四錢
國學院大學長 文學博士	河野 省三	我國體と日本精神	金一圓三十錢 送料十錢
國學院大學教 授文學博士	植木直一郎	國史と日本精神	金一圓二十錢 送料十錢
東京帝大講師 文學博士	紀平 正美	日本精神と辨證法	金五十錢 送料四錢
廣島文理大學 教授文學博士	清原 貞雄	日本精神と其顯現	金三十錢 送料四錢
九州帝大教授 文學博士	鹿子木員信	新日本主義と歴史哲學	金五十錢 送料四錢
廣島文理大學 教授文學博士	西 晋一郎	歴史と教育	金三十錢 送料四錢
文學博士	中村 孝也	現代思想の歴史的批判	金三十錢 送料四錢
廣島文理大學 教授文學博士	西 晋一郎	我が國の教育	金三十錢 送料四錢
東京帝大教授 文學博士	吉田 熊次	國民理想と教育	金四十錢 送料四錢
京都帝大教授 文學博士	牧 健二	日本國體への反省	金三十錢 送料四錢

文部省社會教育局編	補習教育の沿革と現況	金 二 送料十四錢
日本中央放送協會教養部長 小尾範治著	世界の青少年運動	金 一圓三十錢 送料十錢
元文部省青年教育課長 小尾範治著	社會教育の展望	金 一圓六十錢 送料十錢
國學院大學道義學會編	本居宣長研究	金 一圓八十錢 送料十二錢
伯 爵 金子堅太郎述	帝國憲法制定の精神	金 三十錢 送料四錢
明治大學教授 森吉義旭著	近代思想の動向と日本憲法	金 八十錢 送料六錢
東京文理大學教授文學博士 吉田 靜致	人格の生活と現代の社會	金 三十五錢 送料四錢
國民精神文化研究所員 山本勝市著	私有財産制度の意義	金 四十錢 送料四錢
京都帝大教授經濟學博士 作田 莊一	現代國民經濟の趨勢	金 六十錢 送料四錢
京都帝大教授文學博士 高田 保馬	我が國の農村問題	金 四十錢 送料四錢
國民精神文化研究所員 藤澤親雄著	近代政治思想と皇道	金 七十錢 送料四錢
京都帝大教授經濟學博士 作田 莊一	日本國家主義と經濟統制	金 七十錢 送料四錢
早稻田大學教授政治學博士 五來欣造著	フアツシズムと其國家理論	金 八十錢 送料六錢

國民精神文化研究所所員

河村只雄編 (最新刊)

# 思想問題年表

菊判上製本

總クロース紙函入

金一圓八十錢

送料十二錢

本書は思想問題、社會問題に關聯せる事項を、世界の動き、國內の動き、學生の動きの三段に分ち、大正元年より昭和十一年二月の空前の大事件まで、四半世紀間の年表記録である。その大正元年より始められた所以は其當時から世界は特に動きはじめ、それが遂に歐洲大戰といふ大きな波紋となつて現はれた、亞細亞の東端にまで大動搖を及ぼした意味に於てある。更に小學校教員關係並に青少年關係の者は特に附録として卷末に添へた。斯の方面に關心ある諸士是非一本を薦む。

前文部省青年教育課長 小尾範治著  
日本放送協會教養部長

## 世界青少年運動

著者はハンガリーの世界少年團大會に我が國少年團日本聯盟の派遣團長として參加した。  
世界を擧げて非常時の浪高き今日、各國の青少年

が如何なる訓練情況にあるかを眼のあたりに見、尚その前後に亘り、青少年運動の現狀を視察し、開拓したイタリヤ、フランス、ドイツ、及びオーストリア、リカを巡歴し、最近の青少年運動のめづるべき點を列強に於ける最近の思想、情況、社會的動向を窺ひ、如何にこれを十年前の思想、情況、社會的動向を親みに、如何にこれを十年前の思想、情況、社會的動向をを顧み、更にこれを十年前の思想、情況、社會的動向をひ併せて、我々日本國民が、轉じて深い反省と大なる努力の必要を痛感し、發表したものが本書の内容である。

四六判上製本 金一圓三十錢 送料十錢  
寫眞十數葉

會及普育教年青

內會館育教・橋ツ一田神京東  
番七七二一京東・座口替振

所行發

# 國民精神作興叢書

第一期三冊  
金三十錢  
送料四錢

## 文部省 社會教育編輯局

本書は國民精神の作興に資するため、各方面の士に執筆を委嘱し叢書として輯を追ひ發行し、廣く江湖に頒布するものである。

(1) 日本精神の由來

文學博士 紀平正美

(2) 國體を中心とせる思想問題

東京高等師範學校教授 亘理章三郎

(3) 人間の生活への理解

文學博士 吉田靜致

協同會前農村課長  
同現大阪支所長

松村勝治郎著 (最新刊)

# 農村更生と農村調査

右の書は前時の大藏大臣たる高橋是清翁

に招かれて所信を求められたる際、著者の開陳せる意見の一節を集録せるものである。

金三十五錢 送料四錢

内容要目

- 一 農村調査の重點
- 二 農村更生の重點
- 三 農村問題の離村問題と其對策

發行所 東京神田一ツ橋教育會館内 青年教育普及會



# 青年學校並關係者に必備書

文部省構内  
社會教育會編

## 高等青年講座

(總目次)  
贈呈

各冊 分賣金 四十五錢  
送料 各金 六錢

**推薦**  
(課目) 修養・公民・國文・國史・物理・工業・法經・美術・化學・商業・西洋・地理・博物・軍事  
青年相手の書籍汗牛充棟も當ならぬ中に在つて本書は光を放つべき一存在たるを失はぬ。殊に青年學校の上級生には勿論中等程度の諸學生に相應しいと思ふ「高等青年講座」とは此意味に於て名實兼備といふべきであらう。青年にして其の趣味嘗て夏目漱石先生は「うづら籠」を「此一篇に問はれたが、私も同じ言葉で以つて本講座を天下の青年諸君におすゝめする云々」  
文部省宗教局長(元青年教育課長) 高田 休廣

文部省  
青年教育課  
青戸精一著

## 青年學校關係法令解説

四六判三百頁上製本 金一圓五十錢 送料十二錢

文部省社會  
教育局編纂

## 青年學校關係法令

增訂版

金四十錢 送料六錢

陸軍省  
徵募課編纂

## 青年學校教練教科書

生徒用 別冊付 四十錢(送料)  
職員用 指圖書 八十錢(送料)  
一組三冊 全六十冊 金十二圓也 送料實費

陸軍省  
徵募課編纂

## 青年學校教練用掛圖

文部省の告示に基き必要事項全部を印刷し、用紙と製本は特に耐久力に注意し、御採用 並定價 金八十錢 並定價 金七十八錢

青年教育普及會特製

## 青年學校手帳

文部省の告示に基き必要事項全部を印刷し、用紙と製本は特に耐久力に注意し、御採用 並定價 金八十錢 並定價 金七十八錢

青年教育普及會

東京電話 〇九二五  
神田區 〇一四二  
田代橋 〇一四二  
橋本 〇一四二  
教育會館 〇一四二  
內番 〇一四二



侍講 元田永孚先生撰

東京帝大教授  
文學博士

深作安文先生謹著

勅選訓話  
國民寶典

# 幼學綱要講話

幼學綱要是 明治天皇が元田侍講に勅命して撰せしめ給ひしもの、時は 陛下が御壯年の明治初期で、國家多事の裡にも、國民教育に對する御配慮の程を拜察し、現時の世相を顧みて、誠に恐懼感激に堪へない次第であります。

曩に修養講話として、深作先生がJ O A Kより放送されましたのは、誠に意義深きことと存じます。かゝる貴重なる文獻が、今日迄比較的等閑に附せられたのは、既刊のものは漢文直譯の文體で、難解なる文字多く、自然高閣に束ねらるゝに至つたものであらうと思われまふ。

茲に、本會は其使命に鑑み、先生に乞ふて、現代の實情に適合する様其文體を平易に書き改め、汎く全國民に普及させたい念願で本書を刊行した所以であります。(類書あり著者に御注意)

## 内容目次

第一	孝行・訓話
第二	忠節・同
第三	誠實・同
第四	儉素・同
第五	忍耐・同
第六	貞操・同
第七	廉潔・同
第八	公平・同

定價 金五十錢

送料金四錢  
東京市内不要

# 文部省認定の安倍季雄三名著

## 父の夢母の夢

一人の少年が母に亡くなられ、次に世話になつたおばさんや深切な親方にも亦わかれて、さんく苦勞をしました。其悲痛のドン底からフト思ひ出したのはアメリカに居る父です。しかしかよはき少年の身で莫大な旅費や、一人の知るべもない身が、どうして父に逢ふか、その數寄の運命はくはしく本書にあります。(金一圓 送料十錢)

## 日本よい國

生は感激のあまりわざ／＼熊本まで出かけて、此お話の主人公に親しくお目にかゝり創立當時の苦心談、貧兒生徒の奮闘努力などをお聞きになつて出来上つたのです。(金一圓八十錢 送料十四錢)

## 日の丸日本

十一年桃の御節句には照宮殿下の御前で、講演された日本精神の發露せる國際童話で強いばかりが日本の軍人でないといふ實話です。(金一圓六十錢 送料十二錢)

學  
院  
教  
授  
川島先生評

面白くて爲になる本が欲しい。安心して讀ませられる本はないものか。至つて平凡な言葉ではあるが之が各家庭に於て痛切に感じてゐる現狀ではないでせうか。私は安倍季雄君を敬仰し、敢て其の著者を推奨します。成程、世に君よりも達文の士は多いではありませうし、君のより面白／＼／＼本は澤山ございませう。しかし、全くしかしではありませぬか。安倍君は人格者です。日本精神の讚美者です。随つて君の著書は、一讀毎に愈々益々其の滋味を増す米の飯です。舌の人筆の人とはいはんより、君は寧ろ心の人です。精神に生きる人であり、故に其の文も其の話も皆至誠の結晶であります。筆は到底剣よりも強いのであります。此意味に於て私は君の著書を推稱する次第であります。

發行所 東京・神田・教育會館内 振替東京五九六番 家の教育社會 發行所